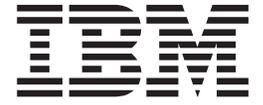


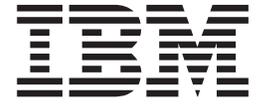
z/OS



## MVS システム・データ・セットの定義



z/OS



## MVS システム・データ・セットの定義

お願い

本書、および本書で記述する製品をご使用になる前に、A-1ページの『付録. 特記事項』を必ずお読みください。

本書は、ライセンス・プログラム z/OS バージョン 1 (5694-A01) リリース 1 に適用されます。また、改訂バージョンで特に断りがない限り、後続のリリースおよびモディフィケーション・レベルにも適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典： SA22-7629-00  
z/OS  
MVS System Data Set Definition

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2001.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1988, 2001. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2001

# 目次

図 . . . . .	ix
表 . . . . .	xi
本書について . . . . .	xiii
本書の対象読者 . . . . .	xiii
本書の使用法 . . . . .	xiii
関連資料 . . . . .	xiii
Web 上のライセンス・ブックへのアクセス . . . . .	xiii
LookAt を利用してメッセージの説明を検索する . . . . .	xiv
変更の要約 . . . . .	xvii
<b>第1章 システム・データ・セットの選択方法と定義方法</b> . . . . .	1-1
拡張区分データ・セット (PDSE) の使用 . . . . .	1-1
他のタイプのデータ・セットの定義 . . . . .	1-1
システム・データ・セットの保護 . . . . .	1-4
マスター・カタログの定義方法 . . . . .	1-4
統合カタログ機能のマスター・カタログの定義方法 . . . . .	1-5
非 VSAM システム・データ・セットの定義方法 . . . . .	1-5
PDSE の非 VSAM システム・データ・セットの定義方法 . . . . .	1-5
その他の非 VSAM システム・データ・セットのカタログ登録 . . . . .	1-6
その他の非 VSAM システム・データ・セット用のスペースの割り振り . . . . .	1-7
スペース使用効率とパフォーマンスの最適化 . . . . .	1-9
非ロード・モジュール・データ・セットのブロック・サイズ . . . . .	1-9
ロード・モジュール・データ・セットのブロック・サイズ . . . . .	1-10
VSAM システム・データ・セットの定義方法 . . . . .	1-12
ページ・データ・セットの定義 . . . . .	1-14
<b>第2章 システム・データ・セットの説明</b> . . . . .	2-1
マスター・カタログ . . . . .	2-1
内容 . . . . .	2-1
割り振り情報 . . . . .	2-1
補足情報 . . . . .	2-1
IODF . . . . .	2-1
内容 . . . . .	2-1
割り振り情報 . . . . .	2-1
実動 IODF の配置 . . . . .	2-2
IODF ボリュームのバックアップ . . . . .	2-3
SYSn.IPLPARM. . . . .	2-5
内容 . . . . .	2-5
割り振り情報 . . . . .	2-5
使用法の情報 . . . . .	2-5
SYS1.APPCSI . . . . .	2-5
内容 . . . . .	2-5
割り振り情報 . . . . .	2-5
SYS1.APPCTP . . . . .	2-6
内容 . . . . .	2-6
割り振り情報 . . . . .	2-6
SYS1.BROADCAST . . . . .	2-6

内容 . . . . .	2-6
割り振り情報 . . . . .	2-6
使用法の情報 . . . . .	2-7
<b>SYS1.CMDLIB</b> . . . . .	2-7
内容 . . . . .	2-7
割り振り情報 . . . . .	2-7
<b>SYS1.CSSLIB</b> . . . . .	2-7
内容 . . . . .	2-7
割り振り情報 . . . . .	2-8
<b>SYS1.DAE</b> . . . . .	2-8
内容 . . . . .	2-8
割り振り情報 . . . . .	2-9
補足情報 . . . . .	2-9
<b>SYS1.DBBLIB</b> . . . . .	2-9
内容 . . . . .	2-9
割り振り情報 . . . . .	2-9
使用法の情報 . . . . .	2-10
<b>SYS1.DDIR</b> . . . . .	2-10
内容 . . . . .	2-10
割り振り情報 . . . . .	2-10
<b>SYS1.DGTCLIB</b> . . . . .	2-11
内容 . . . . .	2-11
割り振り情報 . . . . .	2-11
<b>SYS1.DGTLLIB</b> . . . . .	2-11
内容 . . . . .	2-11
割り振り情報 . . . . .	2-11
<b>SYS1.DGTMLIB</b> . . . . .	2-12
内容 . . . . .	2-12
割り振り情報 . . . . .	2-12
<b>SYS1.DGTPLIB</b> . . . . .	2-12
内容 . . . . .	2-12
割り振り情報 . . . . .	2-13
<b>SYS1.DGTSLIB</b> . . . . .	2-13
内容 . . . . .	2-13
割り振り情報 . . . . .	2-13
<b>SYS1.DGTTLIB</b> . . . . .	2-14
内容 . . . . .	2-14
割り振り情報 . . . . .	2-14
<b>SYS1.DUMPnn</b> . . . . .	2-14
内容 . . . . .	2-14
割り振り情報 . . . . .	2-14
補足情報 . . . . .	2-15
<b>SYS1.FDEFLIB</b> . . . . .	2-15
内容 . . . . .	2-15
割り振り情報 . . . . .	2-15
<b>SYS1.FONTLIB</b> . . . . .	2-16
内容 . . . . .	2-16
割り振り情報 . . . . .	2-16
<b>SYS1.HELP</b> . . . . .	2-16
内容 . . . . .	2-16
割り振り情報 . . . . .	2-16
補足情報 . . . . .	2-17

SYS1.IMAGELIB . . . . .	2-17
内容 . . . . .	2-17
割り振り情報 . . . . .	2-17
SYS1.INDMAC . . . . .	2-18
内容 . . . . .	2-18
割り振り情報 . . . . .	2-18
SYS1.ISAMLPA . . . . .	2-18
内容 . . . . .	2-18
割り振り情報 . . . . .	2-18
SYS1.LINKLIB . . . . .	2-19
内容 . . . . .	2-19
割り振り情報 . . . . .	2-19
LOGREC データ・セット . . . . .	2-20
内容 . . . . .	2-20
割り振り情報 . . . . .	2-20
補足情報 . . . . .	2-21
SYS1.LPALIB . . . . .	2-21
内容 . . . . .	2-21
割り振り情報 . . . . .	2-21
SYS1.MACLIB . . . . .	2-22
内容 . . . . .	2-22
割り振り情報 . . . . .	2-22
SMF データ・セット . . . . .	2-22
内容 . . . . .	2-22
割り振り情報 . . . . .	2-23
SYS1.MIGLIB . . . . .	2-23
内容 . . . . .	2-23
割り振り情報 . . . . .	2-23
SYS1.MODGEN . . . . .	2-24
内容 . . . . .	2-24
割り振り情報 . . . . .	2-24
SYS1.MSGENU . . . . .	2-24
内容 . . . . .	2-24
割り振り情報 . . . . .	2-24
SYS1.MSGJPN . . . . .	2-25
内容 . . . . .	2-25
割り振り情報 . . . . .	2-25
SYS1.NUCLEUS . . . . .	2-25
内容 . . . . .	2-25
割り振り情報 . . . . .	2-25
SYS1.OVERLIB . . . . .	2-26
内容 . . . . .	2-26
割り振り情報 . . . . .	2-26
SYS1.PARMLIB . . . . .	2-26
内容 . . . . .	2-26
割り振り情報 . . . . .	2-26
補足情報 . . . . .	2-27
PASSWORD データ・セット . . . . .	2-27
内容 . . . . .	2-27
割り振り情報 . . . . .	2-27
補足情報 . . . . .	2-27
SYS1.PDEFLIB . . . . .	2-28

内容	2-28
割り振り情報	2-28
SYS1.PROCLIB	2-28
内容	2-28
割り振り情報	2-28
SYS1.PSEGLIB	2-29
内容	2-29
割り振り情報	2-29
SYS1.SAMPLIB	2-29
内容	2-29
割り振り情報	2-29
SYS1.SBLSCLI0	2-30
内容	2-30
割り振り情報	2-30
SYS1.SBLSKELO	2-30
内容	2-30
割り振り情報	2-30
SYS1.SBLSMSG0	2-31
内容	2-31
割り振り情報	2-31
SYS1.SBLSPNL0	2-32
内容	2-32
割り振り情報	2-32
SYS1.SBLSTBL0	2-32
内容	2-32
割り振り情報	2-32
SYS1.SCBDCLST	2-33
内容	2-33
割り振り情報	2-33
SYS1.SCBDHENU	2-33
内容	2-33
割り振り情報	2-34
SYS1.SCBDHJPN	2-34
内容	2-34
割り振り情報	2-34
SYS1.SCBDMENU	2-35
内容	2-35
割り振り情報	2-35
データ・セット特性	2-35
SYS1.SCBDMJPN	2-35
内容	2-35
割り振り情報	2-35
データ・セット特性	2-35
SYS1.SCBDPENU	2-36
内容	2-36
割り振り情報	2-36
データ・セット特性	2-36
SYS1.SCBDPJPN	2-36
内容	2-36
割り振り情報	2-36
データ・セット特性	2-36
SYS1.SCBDTENU	2-36

内容	2-36
割り振り情報	2-37
データ・セット特性	2-37
<b>SYS1.SCBDTJPN</b>	2-37
内容	2-37
割り振り情報	2-37
データ・セット特性	2-37
<b>SYS1.SISTMAC1</b>	2-37
内容	2-37
割り振り情報	2-37
<b>SYS1.STGINDEX</b> データ・セット	2-38
内容	2-38
割り振り情報	2-38
アクセス方式サービスの使用	2-38
補足情報	2-39
<b>SYS1.SVCLIB</b>	2-39
内容	2-39
割り振り情報	2-39
<b>SYS1.TCOMMACH</b>	2-40
内容	2-40
割り振り情報	2-40
<b>SYS1.TELCMLIB</b>	2-40
内容	2-40
割り振り情報	2-40
<b>SYS1.UADS</b>	2-41
内容	2-41
割り振り情報	2-41
<b>SYS1.VTAMLIB</b>	2-42
内容	2-42
割り振り情報	2-42
<b>第3章 旧実動システムからのデータ・セットの使い方</b>	3-1
ステップ 1	3-2
ステップ 2	3-3
ステップ 3	3-3
ステップ 4	3-4
ステップ 5	3-4
ステップ 6	3-4
<b>付録 特記事項</b>	A-1
商標	A-2
<b>索引</b>	X-1





1-1.	統合カタログ機能カタログを定義する . . . . .	1-5
1-2.	JCL を使用して SMS ボリュームに PDSE の非 VSAM システム・データ・セット用のスペースを割り振る . . . . .	1-6
1-3.	アクセス方式サービスを使用してその他の非 VSAM システム・データ・セットをカタログに登録する . . . . .	1-7
1-4.	JCL を使用して非 VSAM システム・データ・セットを割り振る . . . . .	1-9
1-5.	アクセス方式サービスを使用して VSAM システム・データ・セットを定義する . . . . .	1-14
2-1.	IODF ボリューム上の SYSn.IPLPARM の中の LOADxx メンバー . . . . .	2-2
2-2.	IODF ボリューム上の SYS1.PARMLIB の中の LOADxx メンバー . . . . .	2-2
2-3.	システム常駐ボリューム上の SYS1.PARMLIB の中の LOADxx メンバー . . . . .	2-3
2-4.	SYSn.IPLPARM データ・セットが入った 1 次 IODF ボリューム . . . . .	2-4
2-5.	SYSn.IPLPARM データ・セットがある 1 次および代替の IODF ボリューム . . . . .	2-4
3-1.	旧実動システムのデータ・セットと新構築システムとの結合 . . . . .	3-1



# 一 表

1-1.	システム・データ・セットの要約 . . . . .	1-2
------	---------------------------	-----



---

## 本書について

本書では、DFSMSdfp に必要なデータ・セットを含む、z/OS が稼働しているシステムのためのシステム・データ・セットを定義する方法について説明しています。

---

## 本書の対象読者

本書は、z/OS のシステム・データ・セットを選択し、定義する必要のある方々を対象にしています。

---

## 本書の使用法

本書は次の章から構成されています。

- 第1章 システム・データ・セットの選択方法と定義方法には、選択する必要があるシステム・データ・セットの一覧表があり、これらのシステム・データ・セットを JCL またはアクセス方式サービス (あるいはその両方) を使用して定義する方法が説明されています。
- 第2章 システム・データ・セットの説明では、マスター・カタログとシステム・データ・セットについて説明しています。
- 第3章 旧実動システムからのデータ・セットの使い方では、旧実動システムのシステム・データ・セットを使用する方法について説明しています。

---

## 関連資料

本書では、随所で他の資料を参照しています。その場合、資料名は略式名で示しています。z/OS のすべての要素に関するブックの正式な名称とオーダー番号については、z/OS 情報ロードマップ リリース 1 を参照してください。

---

## Web 上のライセンス・ブックへのアクセス

次のインターネットの IBM Resource Link の Web サイトで、PDF 形式の z/OS ライセンス文書をご購入いただけます。

<http://www.ibm.com/servers/resourceLink>

ライセンス・ブックは、z/OS ライセンス交付を受けたお客様のみがご購入いただけます。ライセンス・ブックにアクセスするには、IBM Resource Link の Web のユーザー ID、パスワードおよびキー・コードが必要です。z/OS をご注文いただいた際に、このキー・コードが記載された紙を受け取っていらっしゃいます。

IBM Resource Link の Web のユーザー IDとパスワードを入手するには、次の URL のログオンしてください。

<http://www.ibm.com/servers/resourceLink>

z/OS ライセンス・ブックにアクセスするための登録は、次の手順で行なってください。

1. Resource Link のユーザー ID とパスワードを使用して Resource Link にログオンします。

2. 左端のナビゲーション・バーにある「**User Profiles**」をクリックします。
3. 「**Access Profile**」をクリックします。
4. 「**Request Access to Licensed books**」をクリックします。
5. 指示されたらキー・コードを指定し、「**Submit**」ボタンをクリックします。

正しいキー・コードを指定すると、要求を処理してよいかを確認するメッセージが表示されます。要求が処理された後、電子メールによる確認メッセージを受け取ります。

**注:** z/OS ライセンス・ブックにアクセスするための登録を行ない、要求が処理されたことを知らせる確認の電子メールを受け取っていない場合、z/OS ライセンス・ブックにアクセスできません。

ライセンス・ブックにアクセスするには、次の手順に従ってください。

1. Resource Link のユーザー IDとパスワードを使用して Resource Link にログオンします。
2. 「**Library**」をクリックします。
3. 「**zSeries**」をクリックします。
4. 「**Software**」をクリックします。
5. 「**z/OS**」をクリックします。
6. 該当する項目を選択してライセンス・ブックにアクセスします。

## LookAt を利用してメッセージの説明を検索する

LookAt というオンライン機能を使用して、z/OS メッセージおよびシステム異常終了の説明を検索することができます。

LookAt は直接説明にアクセスするので、LookAt を利用した情報の検索は従来の検索方法よりも速いです。

LookAt には、インターネットまたは TSO コマンド行からアクセスできます。

次の URL で LookAt を利用できます。

<http://www.ibm.com/servers/eserver/zseries/zos/bkserv/lookat/lookat.html>

TSO コマンドで LookAt を使用するには、ホスト・システムに LookAt をインストールする必要があります。TSO 用の LookAt コードは、LookAt の Web サイトで「**News and Help**」をクリックして入手するか、または *z/OS Collection* (SK3T-4269) で入手してください。

TSO コマンド行からメッセージの説明を検索するには、次の例のように **lookat message-id** と入力します。

```
lookat iec192i
```

このコマンドにより、メッセージ IEC192I のメッセージ説明に直接アクセスします。

LookAt Web サイトからメッセージの説明を検索するには、メッセージ ID を入力します。必要に応じてリリースを選択できます。

**注:** メッセージによっては、複数のブックに情報が記載されています。たとえば、IEC192I には、*z/OS MVS* 宛先コードおよび記述コード の中にリストされているルーティング・コードおよび記述子コードがあります。このようなメッセージの場合、LookAt からは、開くブックを選択するよう指示するプロンプトが出されます。



---

## 変更の要約

**SA88-8595-00 (英文原典: SA22-7629-00) の  
変更の要約  
z/OS バージョン 1 リリース 1**

本書に記載されている情報は、*OS/390 MVS* システム・データ・セットの定義にも記載されています。



---

## 第1章 システム・データ・セットの選択方法と定義方法

z/OS をインストールする前に、必要なシステム・データ・セットを選択して、それらを定義しておく必要があります。1-2ページの表1-1は、必要となるデータ・セットの一覧表です。それぞれのデータ・セットの詳しい説明については、2-1ページの『第2章 システム・データ・セットの説明』を参照してください。

---

### 拡張区分データ・セット (PDSE) の使用

DFSMS/MVS をインストール済みであり、かつ SMS がアクティブである場合には、SMS 管理ボリューム上にいくつかのシステム・データ・セットを (PDSE で) 配置することができます。

- SYS1.CSSLIB
- SYS1.LINKLIB
- SYS1.MIGLIB

また、LNKLST 連結内のデータ・セットも PDSE にすることができます。

しかし、以下のような、それ以外のシステム・データ・セットは PDSE にすることはできません。

- SYSn.IPLPARM
- SYS1.LPALIB、および LPALST 連結内のデータ・セット
- SYS1.NUCLEUS
- SYS1.PARMLIB
- SYS1.PROCLIB
- SYS1.SVCLIB

また、LPA 内に存在するプログラム (PLPA、MLPA/EMLPA、および FLPA/EFLPA) も、PDSE に入れることはできません。

個々のインストール先の要件によって、SMS ボリューム に配置できるその他のシステム・データ・セットが決まります。

---

### 他のタイプのデータ・セットの定義

配布ライブラリー (DLIB) からのコンポーネントとユーザー定義のデータ・セットをシステムに組み入れる前に、JCL とアクセス方式サービスを使用してシステム・データ・セットを次のような順序で定義しなければなりません。

1. 1-4ページの『マスター・カタログの定義方法』で示されるように、マスター・カタログを定義する。最初にマスター・カタログを定義しなければなりません。たとえば、マスター・カタログをあるジョブの最初のステップで定義し、次に後続のステップで残りのシステム・データ・セットを定義することができます。
2. 1-12ページの『VSAM システム・データ・セットの定義方法』で示されるように、仮想記憶アクセス方式 (VSAM) システム・データ・セットを定義する。アクセス方式サービス・コマンドを使用して VSAM システム・データ・セット (マスター・カタログ、SMF データ・セット、VIO ジャーナリング・データ・セットおよびページ・データ・セット) をカタログして、スペースを割り振ります。

3. 1-5ページの『非 VSAM システム・データ・セットの定義方法』で示されるように、非 VSAM システム・データ・セットを定義する。アクセス方式サービスの DEFINE コマンドを使用して非 VSAM データ・セットをカタログし、JCL を使用してそのスペースの割り振りを行います。

表 I-1. システム・データ・セットの要約

システム・データ・セット	タイプ	必須 / オptional	2 次スペース 割り振りの可否	複数システムによる共用の可否	注
BROADCAST	区分	必須	不可	可	1, 9
APPCSI	VSAM KSDS	Optional	不可	可	1
APPCTP	VSAM KSDS	Optional	不可	可	1
CMDLIB	区分	Optional	可	可	
CSSLIB	区分	必須	可	可	1, 6, 9, 5
DAE	順次	Optional	可	可	1
DGTCLIB	区分	Optional	可	可	
DGTLIB	区分	Optional	可	可	
DGTMLIB	区分	Optional	可	可	
DGTPLIB	区分	Optional	可	可	
DGTSLIB	区分	Optional	可	可	
DGTTLIB	区分	Optional	可	可	
DUMPnn	順次	Optional	可	不可	9, 10
2 重データ・セット	VSAM	Optional	不可	不可	2, 3
FDEFLIB	区分	Optional	可	可	
FONTLIB	区分	Optional	可	可	
HELP	区分	Optional	可	可	
IMAGELIB	区分	必須	可	可	1, 9
INDMAC	区分	Optional	可	可	
IODF	VSAM	必須	不可	可	4
IPLPARM	区分	Optional	可	可	8
ISAMLPA	区分	Optional	可	可	
LINKLIB	区分	必須	可	可	6, 9, 5
LOGREC	順次、移動不能 (PSU)	Optional	不可	不可	
LPALIB	区分	必須	可	可	8, 9, 11
MACLIB	区分	必須	可	可	
MANn	VSAM	Optional	不可	不可	9
マスター・カタログ	ICF または VSAM	必須	可	不可	3
MIGLIB	区分	必須	可	可	6, 9, 5
MODGEN	区分	必須	可	可	
MSGENU	区分	Optional	可	可	
MSGJPN	区分	Optional	可	可	
NUCLEUS	区分	必須	不可	可	7, 8, 9, 11
OVERLIB	区分	Optional	可	可	
ページ・データ・セット	VSAM	必須	不可	不可	2, 3
PARMLIB	区分	必須	可	可	8, 9
PASSWORD	順次	Optional	不可	不可	7
PDEFLIB	区分	Optional	可	可	
PROCLIB	区分	必須	可	可	8, 9
PSEGLIB	区分	Optional	可	可	
SAMPLIB	区分	必須	可	可	
SBSLCLIO	区分	Optional	可	可	

表 1-1. システム・データ・セットの要約 (続き)

システム・データ・セット	タイプ	必須 / オプション	2 次スペース割り振りの可否	複数システムによる共用の可否	注
SBLSKEL0	区分	オプション	可	可	
SBLSMMSG0	区分	オプション	可	可	
SBLSPNL0	区分	オプション	可	可	
SBLSTBL0	区分	オプション	可	可	
SCBDCLST	区分	オプション	可	可	
SCBDHENU	区分	オプション	可	可	
SCBDHJPN	区分	オプション	可	可	
SCBDMENU	区分	オプション	可	可	
SCBDMJPN	区分	オプション	可	可	
SCBDPENU	区分	オプション	可	可	
SCBDPJPN	区分	オプション	可	可	
SCBDTENU	区分	オプション	可	可	
SCBDTJPN	区分	オプション	可	可	
SISTMAC1	区分	オプション	可	可	
STGINDEX	VSAM	オプション	不可	不可	2, 3
SVCLIB	区分	必須	可	可	7, 8, 11
TCOMMAC	区分	オプション	可	可	
TELCMLIB	区分	オプション	可	可	
UADS	区分	オプション	可	可	1, 9
VTAMLIB	区分	オプション	可	可	

注:

- このデータ・セットを複数のプロセッサ間で共用する場合は、グローバル・リソース逐次化などの逐次化コンポーネントを使用して、保全性が確保されるようにする必要があります。
- スペースはシリンダー単位で割り振ります。
- 最初のインストールの間は、マスター・カタログ、ページ・データ・セット、および VIO ジャーナリング・データ・セットのスペースは、1 つのボリュームに割り振っておきます。最初の IPL を終えたら、パフォーマンスを向上させるために、これらのデータ・セットを別々のボリューム上に分散させます。
- このデータ・セットの定義には、JCL とアクセス方式サービスは使用できません。その割り振りには、ハードウェア構成定義 (HCD) しか使用できません。2-1ページの『IODF』を参照してください。実動 IODF が、複数のエクステントに常駐してはなりません。
- このデータ・セット (または LINKLST の中の他のデータ・セット) に対する更新は、LLA リフレッシュが行われるまで有効にはなりません。
- このデータ・セット (または LNKLST 連結の中のデータ・セット) の場合は、既存のメンバーを更新するか、あるいは新しいメンバーを追加することで、2 次データ・セット・エクステントを作成することができます。データ・セットが PDS である (PDSE ではない) 場合、システムを再 IPL するまで、システムは、その 2 次データ・セット・エクステントに入っているどのモジュールもアクセスできません。
- このデータ・セットは、システム常駐ボリューム上に配置してください。
- このデータ・セットは PDS でなければなりません。PDSE にすることはできません。
- このデータ・セットの高位修飾子は SYS1 でなければなりません。
- ダンプ・データ・セットの自動割り振りの RACF 暗黙指定を考慮してください (RACF は、セキュリティー・サーバーの一部です)。説明は、1-4ページの『システム・データ・セットの保護』を参照してください。
- このデータ・セットに対する更新を有効にするには、システムを IPL しなければなりません。

---

## システム・データ・セットの保護

パスワード保護は 使用しないでください。 資源アクセス管理機能 (RACF) または同等のセキュリティー・プロダクトを使用することにより、インストール先のセキュリティーの方針に従ってシステム・データ・セットを保護します。(RACF は、セキュリティー・サーバーの一部です。) 詳細は、セキュリティー管理者にお尋ねください。

RACF に関する考慮事項は、以下のとおりです。

- インストール先の要求事項に従って、個別 DATASET プロファイルと総称 DATASET プロファイルを組み合わせで作成します。プロファイルの数を少なくするために、総称プロファイルをできるだけ使用するようしてください。
- システムを使用するすべての (または大部分の) ユーザーに、ある特定のデータ・セットに対して読み取りアクセス権を持たせる場合は、そのデータ・セットには UACC (汎用アクセス権限) として READ を割り当てます。
- ある特定のデータ・セットに対して読み取りアクセス権を持たせる必要のあるユーザーがほとんど (あるいは一人も) システムにいない場合は、そのデータ・セットには UACC として NONE を割り当てます。
- 限られたユーザー (またはグループ) に UPDATE、またはそれより上位のアクセス権をもたせれば、そのユーザーにデータ・セットの管理を任せることができます。
- セキュリティー・ラベルがシステムで使用される場合は、システム・データ・セットにセキュリティー・ラベルを割り当ててることを検討してください。
- MVS/ESA SP 5.1 以降は、システムは、IPL 時に確立された名前パターンを使用するか、DUMPDS オペレーター・コマンドを使用して、ダンプ・データ・セットを自動的に割り振ることができます。これらの新しいデータ・セットは、インストール先のセキュリティー・ポリシーに従って必ず保護するようにしてください。

システム・データ・セットの保護方法の詳細については、*z/OS SecureWay Security Server (RACF) セキュリティー管理者のガイド*を参照してください。

**注:** RACF を使用して、許可プログラム機能 (APF) ライブラリー内の許可プログラムを保護することもできます

---

## マスター・カタログの定義方法

統合カタログ機能カタログをマスター・カタログとして定義します。

マスター・カタログの定義を終えたら、次に、LISTCAT コマンドを使用して、その新しいカタログに登録されているエントリーの名前を印刷することができます。

新しいマスター・カタログを定義するために使用しているシステムには、すでにマスター・カタログがあります。したがって、このシステムのマスター・カタログには、ユーザーが定義した新しいマスター・カタログがユーザー・カタログの 1 つとして登録されます。

## 統合カタログ機能のマスター・カタログの定義方法

図1-1は、統合カタログ機能のマスター・カタログを作成する方法を示した例です。

このジョブは、統合カタログ機能マスター・カタログを作成することのほかに、VSAM ボリューム・データ・セット (VVDS) がまだボリューム上になければ、それを作成します。

注: 非 VSAM システム・データ・セットを “SYS1.” 以外の高位修飾子を使用してカタログ登録およびスペース割り振りを行い、後で、次のようにして、そのシステム・データ・セットを “SYS1.” に名前を変更することができます。

```
ALTER SYSA.* NEWNAME(SYS1.*) CATALOG(catalog name)
```

図1-1、図1-3、および図1-4の例では、高位修飾子は “SYSA.” です。

```
//DEFICAT JOB MSGLEVEL=1,MSGCLASS=A
//DEFINEIC EXEC PGM=IDCAMS
//CATVOL DD VOL=SER=SG2001,UNIT=3390,DISP=OLD
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE MASTERCATALOG (NAME(SYSA.A.NEW.ICF.CATALOG) -
FILE(CATVOL) -
ICFCATALOG -
VOLUME(SG2001) -
CYLINDERS(5 2))
LISTCAT CATALOG (SYSA.A.NEW.ICF.CATALOG)
/*
```

図 1-1. 統合カタログ機能カタログを定義する

統合カタログ機能カタログの定義方法について詳しくは、以下を参照してください。

- *DFSMS/MVS Planning for Installation*
- *DFSMS/MVS Managing Catalogs*
- *DFSMS/MVS Access Method Services for the Integrated Catalog Facility*

---

## 非 VSAM システム・データ・セットの定義方法

非 VSAM システム・データ・セットの定義は、そのデータ・セットのカタログ登録とスペース割り振りの 2 つの部分から成ります。

新しいシステム用に非 VSAM システム・データ・セットをカタログ登録するためには、既存のシステムでアクセス方式サービス (IDCAMS) を実行しなければなりません。したがって、非 VSAM システム・データ・セットを定義するには、次の 2 つのステップを使用します。

1. IDCAMS を使用して、非 VSAM データ・セットをカタログ登録する。
2. JCL を使用して、その非 VSAM データ・セットを割り振る。

## PDSE の非 VSAM システム・データ・セットの定義方法

SMS 管理のシステム・データ・セットをカタログ登録するときには、STEPCAT JCL ステートメントを使用してはなりません。SMS 管理データ・セットを割り振

るときは、*DFSMS/MVS Managing Catalogs* を参照してください。PDSE については、JCL を使用して両方のステップを実行することができます。図1-2 を参照してください。

PDSE ではない非 VSAM システム・データ・セット用のスペースを割り振ることが必要です。

### PDSE 用のスペースの割り振り

SMS データ・セットの場合には、割り振りを行うジョブは、マスター・カタログを使用して SMS データ・セットを探し出します。自動クラス選択 (ACS) ルーチンがその SMS データ・セットを識別します。図1-2 は、PDSE のカタログ登録とその PDSE 用のスペースの割り振りを行う方法を示した例です。 *MVS/ESA Storage*

*Management Library: Managing Data*

```
//ALLOC      JOB  MSGLEVEL=1,MSGCLASS=A
//ALLOCATE   EXEC PGM=IEFBR14
//SYSPRINT   DD  SYSOUT=*
//SYSABEND   DD  SYSOUT=*
//*
//CSSLIB     DD  DSN=SYSA.CSSLIB,DISP=(,CATLG),
//           DSNTYPE=LIBRARY,
//           DCB=(RECFM=U,DSORG=PO),
//           SPACE=(see-Program-Directories),
//           STORCLAS=ALL
//*
//LINKLIB    DD  DSN=SYSA.LINKLIB,DISP=(,CATLG),
//           DSNTYPE=LIBRARY,
//           LABEL=EXPDT=99366,
//           DCB=(RECFM=U,DSORG=PO),
//           SPACE=(see-Program-Directories),
//           STORCLAS=ALL
//*
//MACLIB     DD  DSN=SYSA.MACLIB,DISP=(,CATLG),
//           DSNTYPE=LIBRARY,
//           LABEL=EXPDT=99366,
//           DCB=(RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=0),
//           SPACE=(see-Program-Directories),
//           STORCLAS=ALL
//*
//MIGLIB     DD  DSN=SYSA.MIGLIB,DISP=(,CATLG),
//           DSNTYPE=LIBRARY,
//           LABEL=EXPDT=99366,
//           DCB=(RECFM=U,DSORG=PO),
//           SPACE=(see-Program-Directories),
//           STORCLAS=ALL
/*
```

図1-2. JCL を使用して SMS ボリュームに PDSE の非 VSAM システム・データ・セット用のスペースを割り振る

## その他の非 VSAM システム・データ・セットのカタログ登録

1-7ページの図1-3 は、PDSE ではない非 VSAM システム・データ・セットをマスター・カタログに登録する方法を示した例です。図1-2 に記載されているように JCL を使用して、PDSE のスペースを割り振り、カタログに登録します。

ジョブ CATNVSAM は、DEFINE コマンドで指定された非 VSAM システム・データ・セットそれぞれのためのカタログ・エントリーを新しいマスター・カタログに作成します。

データ・セットをシステム常駐ボリュームに置いておきたいときは、次に示すように、間接ボリューム通し番号と装置タイプを使用して VOLUMES パラメーターと DEVICETYPES パラメーターを指定することができます。

```
VOLUMES(*****) DEVICETYPES(0000)
```

この手法を用いるのは、システム常駐ボリュームの通し番号が変更されることが予想される場合です。これによって、新しいボリュームを指すようカタログに登録し直さなくても、非 VSAM データ・セットが使用できます。(間接ボリューム通し番号と装置タイプの詳細については、*DFSMS/MVS Access Method Services for the Integrated Catalog Facility* の DEFINE NONVSAM の説明を参照してください。)

図1-3 の終わりのところで示してあるように、新しいカタログに入っている非 VSAM エントリーの名前を印刷するときは LISTCAT コマンドを使用します。

```
//CATNVSAM JOB MSGLEVEL=1,MSGCLASS=A
//NONVSAM EXEC PGM=IDCAMS
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE NONVSAM (NAME(SYSA.BROADCAST) VOLUMES(SG2001) DEVICETYPES(3390)) -
    CATALOG(SYSA.A.NEW.ICF.CATALOG)
.
.
.
(specify other DEFINE NONVSAM statements as needed, one for each
system data set to be cataloged)
.
.
.
LISTCAT LEVEL (SYSA) CATALOG (SYSA.A.NEW.ICF.CATALOG)
/*
```

図 1-3. アクセス方式サービスを使用してその他の非 VSAM システム・データ・セットをカタログに登録する

## その他の非 VSAM システム・データ・セット用のスペースの割り振り

1-9ページの図1-4 に、IBM プロダクトの SMP/E インストールの間で使用されない、非 VSAM システム・データ・セットのためにスペースを割り振る方法の例を示します。ジョブ ALLOC は、図1-3 に示すジョブでカタログに登録した非 VSAM システム・データ・セットのためのスペースを割り振ります。

これらのデータ・セットは SMS が管理するデータ・セットではないので、DISP、UNIT、および VOL が JCL に指定されています。このジョブは、マスター・カタログをアクセスすることも、更新することもしません。

注:

1. IBM プロダクトをインストールするデータ・セット (SYS1.CMDLIB など) については、各プロダクトのプログラム資料説明書に記載されているスペース所要量

を参照してください。各ライブラリーに必要なスペースの合計量を求めるためには、すべてのプログラム資料説明書を見てスペース所要量を足し合わせなければなりません。

**注:** CBIPO または SystemPac などのシステム置換オフリングを発注した場合には、発注されたプロダクトに基づいて IBM でスペースの所要量を計算します。

2. SMS データ・セットの場合には、同様のジョブはボリューム通し番号を無視して、マスター・カタログによって SMS データ・セットを探し出します。自動クラス選択 (ACS) ルーチンがその SMS データ・セットを識別します。  
(MVS/ESA *Storage Management Library: Managing Data*)
3. DCB サブパラメーターの詳しい説明については、第 2 章の個々のデータ・セットの説明を参照してください。

```

//ALLOC   JOB  MSGLEVEL=1,MSGCLASS=A
//ALLOCATE EXEC PGM=IEFBRI4
//BROADCAST DD DSN=SYSA.BROADCAST,DISP=(,KEEP),VOL=(,RETAIN,SER=SG2001),
//          UNIT=3390,SPACE=(CYL,(3),,CONTIG)
//*
//DAE     DD DSN=SYSA.DAE,DISP=(,CATLG),VOL=(,RETAIN,SER=SG2001),
//          DCB=(RECFM=FB,DSORG=PS,LRECL=255,BLKSIZE=0),
//          UNIT=3390,SPACE=(TRK,(6,2))
//*
//DUMP    DD DSN=SYSA.DUMP00,DISP=(SHR,KEEP),VOL=(,RETAIN,SER=SG2001),
//          LABEL=EXPDT=99366,DCB=(RECFM=F,BLKSIZE=4160),
//          UNIT=3390,SPACE=(CYL,(12),,CONTIG)
//*
//IPLPARM DD DSN=SYSA.IPLPARM,DISP=(,KEEP),VOL=(,RETAIN,SER=IODF - volume),
//          DCB=(RECFM=FB,DSORG=PO,LRECL=80,BLKSIZE=0),
//          UNIT=3390,SPACE=(TRK,(2,1,20))
//*
//LOGREC  DD DSN=SYSA.LOGREC,DISP=(,KEEP),VOL=(,RETAIN,SER=SG2001),
//          LABEL=EXPDT=99366,
//          UNIT=3390,SPACE=(CYL,(5),,CONTIG)
//*
//UADS    DD DSN=SYSA.UADS,DISP=(,KEEP),VOL=(,RETAIN,SER=SG2001),
//          DCB=(LRECL=80,RECFM=FB,BLKSIZE=0),
//          UNIT=3390,SPACE=(CYL,(5,2,70))
//*****
//*
//* Copy the following DD statement as many times as you need
//* to allocate the system data sets that you need.
//*
//* For RECFM, LRECL, and BLKSIZE recommendations,
//* and for any specific allocation requirements
//* (such as specifying CONTIG on the SPACE parameter),
//* see "Chapter 2. System Data Set Descriptions" on page 2-1.
//*
//* For SPACE recommendations, see the Program Directories
//* of all the products that you are installing. In some cases,
//* one data set might contain data supplied by more than one
//* product. You will need to add up the space requirements
//* for all the products shipping into those data sets.
//* SYS1.LINKLIB is such a data set, which is why nnn and mmm
//* are shown for the SPACE parameter.
//*
//*****
//LINKLIB DD DSN=SYSA.LINKLIB,DISP=(,KEEP),VOL=(,RETAIN,SER=SG2001),
//          LABEL=EXPDT=99366,DCB=(RECFM=U,BLKSIZE=32760),
//          UNIT=3390,SPACE=(CYL,(nnn,mmm))
//*

```

図 1-4. JCL を使用して非 VSAM システム・データ・セットを割り振る

---

## スペース使用効率とパフォーマンスの最適化

スペース使用効率を最適化するためのシステム・データ・セットのブロック・サイズは、そのシステム・データ・セットが非ロード・モジュール・データ・セットかロード・モジュール・データ・セットかによって異なります。

### 非ロード・モジュール・データ・セットのブロック・サイズ

データ機能プロダクト (DFP) 第 3 版リリース 1 を使用して開始すると、システムは、スペース使用効率を最適化するためのブロック・サイズを自動的に決定するこ

とができます。非ロード・モジュール・データ・セット (区分非ロード・モジュール・データ・セット、順次データ・セット、および VSAM データ・セットを含む) のブロック・サイズについては、システムに自動的に決定させるようにすべきです。また、データ・セットを割り振るための DD ステートメント上に BLKSIZE=0 を指定した場合にも、システムがブロック・サイズを決定します。

## ロード・モジュール・データ・セットのブロック・サイズ

区分ロード・モジュール・データ・セットをアクセスする最初のプログラムが常にリンケージ・エディターであるとは限らないため、ロード・モジュール・データ・セットのブロック・サイズについては、システムに自動的に決定させるようにはすべきではありません。ロード・モジュール・データ・セットを割り振るとき、またはコピーするときは、BLKSIZE の値を 1-11ページの『ロード・モジュール・データ・セットの割り振り』のように指定してください。

ロード・モジュール・データ・セットの割り振りまたはコピーを行った後は、それ以降のプログラムでそのデータ・セットのブロック・サイズを変更しないでください。ロード・モジュール・データ・セットをコピーする場合は、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

## 区分データ・セットと拡張区分データ・セットの差異

ロード・モジュール・データ・セットを、PDS または PDSE のどちらとして割り振るかを決定する際に、次の項目を考慮しなければなりません。

- PDSE サポート  
データ・セットを PDSE にすることが可能かどうかは、データ・セットの説明を読んでください。
- 使用可能度  
ロード・モジュール・データ・セットの使用可能度 (データ・セットのスペースに関連する異常終了を減少させる、圧縮操作の必要性をなくす、システム間でデータ・セットを有効に共用する、など) を重視する場合には、データ・セットに PDSE を使用することを検討してください。
- フェッチ・パフォーマンス  
フェッチ・パフォーマンス (PDS からのロード・モジュールの検索か、または PDSE からのプログラム・オブジェクトの検索にかかる時間) は、次の要因に影響されます。
  - ロード・モジュールまたはプログラム・オブジェクトを格納するデータ・セットのタイプ
  - システム環境 (LPAR、VM ゲスト、あるいはネイティブ MVS)
  - 装置、チャンネル・パス、チャンネル・サブシステム、およびプロセッサ使用率。

このデータ・セットに対して、フェッチ・パフォーマンスが重要かどうかを判断してください。一般的に、オンライン・テレプロセシング・アプリケーション (TSO/E、IMS、または CICS をベースとしたもの) で使用されるモジュールの場合、フェッチ・パフォーマンスがアプリケーションの応答時間を左右する重要な要素になります。一方バッチ・アプリケーションの場合、フェッチ・パフォーマンス

ンスは、それほど重要ではありません。インストール時に、各ロード・モジュール・データ・セットについて、取り出しパフォーマンスの重要度を判断する必要があります。

データ・セット内のロード・モジュールの平均が 1 MB またはそれ以上の場合には、PDSE を使用することによってフェッチ・パフォーマンスが改善できます。比較的小さいモジュールのフェッチ・パフォーマンスは、PDS を使用したほうが効率的です。

- **DASD スペースの使用効率**

ある程度大きな PDS ブロック・サイズの場合、ロード・モジュール・データ・セットに PDSE を使用するよりも、PDS を使用したほうが効果的です。

### **区分データ・セット (PDS) 内のスペース使用効率**

本質的に DASD のスペース使用効率は、PDS 内にあるロード・モジュールのブロック・サイズによって異なります。一般的に、ブロック・サイズが最大のロード・モジュールを超えるまでは、より大きいブロック・サイズを使用すれば、それだけスペース使用効率は向上します。もっと大きいロード・モジュールがデータ・セットに追加されるまで、それ以上ブロック・サイズを大きくしても使用効率は改善されません。その理由は、ロード・モジュールの作成やコピーを行うユーティリティーは、ロード・モジュールがちょうどブロックの切れ目で終わっていないと、「短い」ブロックを書き出すことになるためです。トラック上に残っているバイト数が完全なブロックを書き出すのに必要なバイト数に達していない場合であっても、切り捨てられたブロックが書き出され、その直後から次のブロックが開始されます。

各 DASD レコードに関連するカウント・フィールドが常に (最低でも) 存在することと、カウント・フィールド間とデータ・レコード間にギャップが存在するために、書き出されるレコードの数が少ないほどスペース使用効率の最適化を図ることができます。ロード・モジュールのブロック・サイズを可能な最大のサイズにすることによって、スペースの使用効率を最適化することができます。

サポートされる最大ブロック・サイズは 32,760 です。ロード・モジュールのために区分データ・セットを割り振るときには、この数値を使用しますが、トラックの長さが 32,760 を下回る装置に割り振る場合や、IEBCOPY の COPYMOD 機能を使用せずにトラックの長さが 32,760 を下回る装置タイプの間でコピーを行う場合は例外です。詳細については、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

### **PDS のパフォーマンス**

PDS にあるロード・モジュールのプログラム・フェッチ・パフォーマンスはブロック・サイズによって異なりますが、一般的に大きなブロック・サイズを使用した場合の方がフェッチ・パフォーマンスは向上します。ブロック・サイズを変更した結果フェッチ・パフォーマンスが大幅に改善されるかどうかは、ロード・モジュールの平均の長さや、装置、制御装置、チャンネル・パス、チャンネル・サブシステム、およびプロセッサ使用率などによって左右されます。

### **ロード・モジュール・データ・セットの割り振り**

区分ロード・モジュール・データ・セットをアクセスする最初のプログラムが常にリンケージ・エディターであるとは限らないため、ロード・モジュール・データ・セットのブロック・サイズについては、システムに自動的に決定させるようにはす

べきではありません。ブロック・サイズが自動的に決定されると、スペース使用効率とパフォーマンスの最適化が図られないようなブロック・サイズが選択されてしまう場合があります。また装置タイプ間でロード・モジュールをコピーすることが困難になる場合があります。

ロード・モジュール・データ・セットの割り振りまたはコピーを行った後は、それ以降のプログラムでそのデータ・セットのブロック・サイズを変更しないでください。ロード・モジュール・データ・セットのブロック・サイズを変更する必要がある場合は、新しいブロック・サイズのブロックを割り振り、元のロード・モジュール・データ・セットをそこにコピーしてください。ロード・モジュール・データ・セットをコピーする場合は、『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

ロード・モジュール・データ・セットを割り振る際は、出力 DD ステートメントに下記の DCB サブパラメーターを指定してください。

```
RECFM=U  
BLKSIZE=32760
```

### **ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー**

PDSE をコピーするときに、PDS から PDSE へ、あるいは PDSE から PDS へマイグレーションするときは、IEBCOPY を使用します。

ロード・モジュール・データ・セットをコピーするときは、IEBCOPY (または同様のルーチン) を使用します。IEBCOPY を使用する場合には、COPYMOD 制御ステートメントも使用する必要があります。

コピーしたロード・モジュール・データ・セットを最初に使用するプログラムがリネージ・エディターである場合には、EXEC パラメーターに PARM=DCBS を指定してください。

---

## **VSAM システム・データ・セットの定義方法**

VSAM システム・データ・セットを定義するには、アクセス方式サービスを使用して、1 回のジョブでそれらのデータ・セットをカタログに登録し、そのスペースの割り振りを行います。VSAM システム・データ・セットには、ストレージ索引、ページ・データ・セット、SMF データ・セットがあります。

1-14ページの図1-5 は、VSAM システム・データ・セットを定義する方法を示した例です。

この例では、初期インストール時に、すべてのデータ・セットが 1 つのボリュームに置かれるように定義されています。しかし、最初の IPL を終えたあと、パフォーマンスを向上させるために、これらのデータ・セットは別々のボリュームに分散されます。

図1-5 では、以下のことを行っています。

- 最初の DEFINE CLUSTER コマンドは、VIO ジャーナリング・データ・セットの特性を持った VSAM キー順データ・セット (この場合 SYS1.STGINDEX) を定義します。
- 2 番目の DEFINE CLUSTER コマンドは、SMF システム・データ・セットの特性を持った、1 つの VSAM 入力順データ・セットを定義します。
- 最初の 3 つの DEFINE PAGESPACE コマンドはシステム・ページング・データ・セットを定義していますが、それぞれページ可能リンク・パック域 (PLPA)、共通システム域 (CSA)、および最初の LOCAL 用のものです。ページ・データ・セットは少なくとも 3 つ定義する必要があります。最初と 2 番目のページ・データ・セット、つまり、PLPA と CSA の総スペースは、PLPA、拡張 PLPA、CSA、および拡張 CSA のそれぞれのページを収容できるだけの大きさになっていなければなりません。もう 1 つのページ・データ・セットである LOCAL は、VIO ページとページ可能私用域ページを収容できるだけの大きさになっていなければなりません。また、取られる可能性のある最大量のダンプ・データを収容できるだけの大きさになっている必要があります。この最大値は、CHNGDUMP コマンドの MAXSPACE パラメーターで定義されます。  
(各ページ・データ・セット用として割り振るべきスペース量を判別するための詳しい説明については、1-14ページの『ページ・データ・セットの定義』を参照してください)。
- 最後の LISTCAT コマンドは、カタログに登録されている各エントリーとその属性をリストするためのものです。

VSAM システム・データ・セット SYS1.DDIR の作成に関する説明は、2-10ページの『SYS1.DDIR』を参照してください。

```

//DEFVSAM JOB MSGLEVEL=1,MSGCLASS=1
//VSAMDEF EXEC PGM=IDCAMS
//STEP CAT DD DSN=SYS1.A.NEW.ICF.CATALOG,DISP=OLD
//VOLUME DD DISP=OLD,VOL=SER=SG2001,UNIT=3390
//SYSABEND DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER (NAME (SYS1.STGINDEX) -
               VOLUMES (SG2001) -
               CYLINDERS (5) -
               KEYS (12 8) -
               BUFFERSPACE (20480) -
               RECORDSIZE (2041 2041) -
               FILE (VOLUME) -
               REUSE) -
DATA (CONTROLINTERVALSIZE (2048))-
INDEX (CONTROLINTERVALSIZE (4096))
DEFINE CLUSTER (NAME (SMF data set) -
               VOLUMES (SG2001) -
               NONINDEXED -
               CYLINDERS (12) -
               REUSE -
               RECORDSIZE (4086 32767) -
               SPEED -
               SPANNED -
               CONTROLINTERVALSIZE (4096) -
               SHAREOPTIONS (2))
DEFINE PAGESPACE (NAME (SYS1.PAGE1) -
                 CYLINDERS (15) -
                 FILE (VOLUME) -
                 VOLUMES (SG2001))
DEFINE PAGESPACE (NAME (SYS1.PAGE2) -
                 CYLINDERS (75) -
                 FILE (VOLUME) -
                 VOLUMES (SG2001))
DEFINE PAGESPACE (NAME (SYS1.PAGE3) -
                 CYLINDERS (100) -
                 FILE (VOLUME) -
                 VOLUMES (SG2001))
LISTCAT ALL
/*

```

図 1-5. アクセス方式サービスを使用して VSAM システム・データ・セットを定義する

## ページ・データ・セットの定義

ページ・データ・セットには、アドレス・スペースのうちのページアウトされた部分、共通サービス域 (CSA)、および仮想入出力 (VIO) データ・セットに書き出されたデータが収容されます。

アクセス方式サービスの DEFINE コマンドを用いてページ・データ・セットを定義する方法については、1-12ページの『VSAM システム・データ・セットの定義方法』を参照してください。

アクセス方式サービスを用いてスペースの割り振りを行うときは、シリンダー単位でスペースを割り振ります。ページ・データ・セットでは、1 次エクステンションしか指定できません。

ページ・データ・セットはマスター・カタログに入っている必要があります。旧実動システムからのページ・データ・セットを使用するには、旧実動システムのマスター・カタログ、または IDCAMS の再カタログ定義を使用することができます。3-1ページの『第3章 旧実動システムからのデータ・セットの使い方』を参照してください。

ページ・データ・セットの定義は、直接アクセス・ボリュームにそのためのスペースを割り振り、それをカタログ登録し、それを形式設定し、さらに IEASYS00 か、SYS1.PARMLIB の IEASYSxx メンバーのどちらかの PAGE パラメーターに名前を組み込むことによって行います。

システムを IPL する前に、少なくとも 3 つのページ・データ・セットを定義しなければなりません。システムをインストールする前に、ページ・データ・セットを 256 個まで定義することができます。システム・インストール前に定義しておいたページ・データ・セットを、SYS1.PARMLIB の IEASYS00 メンバーか IEASYSxx メンバーのどちらかに指定します。

システムのインストールを終えたあと、次のようにして追加のページ・データ・セットを定義することができます。

- PARMLIB メンバーの IEASYS00 または IEASYSxx のどちらかに、そのデータ・セットの名前を指定する。
- IPL の間に、PAGE= に、それらのデータ・セットの名前を指定する。
- システムが初期設定された後、PAGEADD コマンドを使用してローカル・ページ・データ・セットを追加する。

SYS1.PARMLIB の IEASYS00、IEASYSxx メンバー、またはメッセージ IEA101A への応答に使用された PAGE= パラメーターのうち、最初に名前が指定されたページ・データ・セットをページ可能リンク・パック域 (PLPA) として使用します。また、システムは、2 番目に名前が指定されたページ・データ・セットを共通域として使用します。

SYS1.PARMLIB に入っているページ・データ・セット名の指定方法とシステム・パラメーター・メンバーの詳しい説明については、*z/OS MVS 初期設定およびチューニング 解説書* を参照してください。



---

## 第2章 システム・データ・セットの説明

本章では、マスター・カタログ、入出力定義ファイル (IODF)、SYSn.IPLPARM、LOGREC、STGINDEX、および **SYS1** という高位修飾子をもったすべてのシステム・データ・セットについて説明します。

---

### マスター・カタログ

#### 内容

マスター・カタログは、データ・セットおよびユーザー・カタログの所在を突き止めるために必要なデータ・セットとボリュームの情報が収められている必須のシステム・データ・セットです。

#### 割り振り情報

マスター・カタログは直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません、このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。マスター・カタログは、統合カタログ機能 (ICF) カタログとして定義してください。マスター・カタログには、固有の名前を割り当てます。

カタログ・エントリーに対する同時要求に迅速に応答するために、マスター・カタログには主としてユーザー・カタログ・エントリーを入れるようにしてください。ユーザー・カタログには、ほとんどのデータ・セット、索引、およびボリュームに対するエントリーが入っています。

マスター・カタログは、記号を使用することによって、システム間で共用することができます。LOGREC および VIO ジャーナリング・データ・セットは、固有なものとして指定することができます。

#### 補足情報

マスター・カタログのセットアップ方法については、*DFSMS/MVS Managing Catalogs*

---

### IODF

#### 内容

入出力定義ファイル (IODF) は、ハードウェアとソフトウェアの構成定義が入っている VSAM データ・セットです。

#### 割り振り情報

ハードウェア構成定義 (HCD) が、入出力定義ファイル (IODF) を作成します。IODF は、あらかじめ割り振っておく必要はありません。その割り振りは、HCD を介して行い、HCD を介して指定されたボリューム上に置かれます。IODF のマイグレーション、および共用 IODF の使用に関する詳細については、*z/OS HCD User's Guide* および *z/OS インストール計画 リリース 1* を参照してください。

## 実動 IODF の配置

実動 IODF の名前を LOADxx メンバーの中に指定します。LOADxx メンバーは、SYSn.IPLPARM データ・セットまたは SYS1.PARMLIB データ・セットのいずれかに置くことができます。ユーザーの選択によって、そのデータ・セットを置くボリュームが決まります。また、ユーザーの選択によって、LOADxx メンバーによって指し示される実動 IODF を置くボリュームが決まります。

LOADxx メンバーは、実動 IODF を指さなければなりません。LOADxx メンバーを SYSn.IPLPARM の中に置いた場合、実動 IODF も SYSn.IPLPARM と同じボリュームに置く必要があります。(図2-1 参照。) この場合、SYS1.PARMLIB は、どのボリュームにでも置くことができます。

SYSn.IPLPARM とそれに関連する IODF を同じ IODF ボリュームに置くことにより、その IODF ボリュームのバックアップ・コピーを取ることができます。2-3ページの『IODF ボリュームのバックアップ』を参照してください。

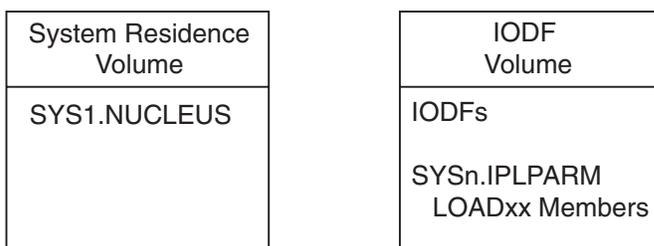


図2-1. IODF ボリューム上の SYSn.IPLPARM の中の LOADxx メンバー

LOADxx メンバーは、実動 IODF を指さなければなりません。SYS1.PARMLIB の中に LOADxx メンバーを置き、SYS1.PARMLIB をシステム常駐ボリュームに置かない場合、実動 IODF は、SYS1.PARMLIB と同じボリュームに置かなければなりません(図2-2 参照。)

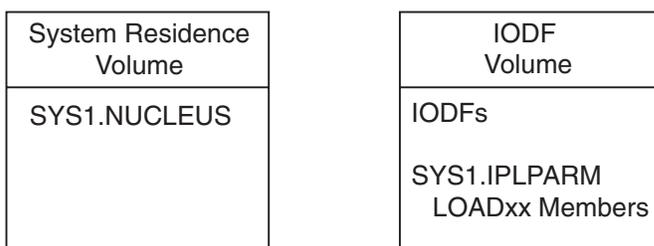


図2-2. IODF ボリューム上の SYS1.PARMLIB の中の LOADxx メンバー

LOADxx メンバーは実動 IODF を指し示さなければなりません。SYS1.PARMLIB の中に LOADxx メンバーを置き、SYS1.PARMLIB をシステム常駐ボリュームに置いた場合は、実動 IODF を他のボリュームに置くことができます(図2-3 参照。)

System Residence Volume	IODF Volume
SYS1.NUCLEUS	IODFs
SYS1.PARMLIB LOADxx Members	

図 2-3. システム常駐ボリューム上の *SYS1.PARMLIB* 中の *LOADxx* メンバー

## IODF ボリュームのバックアップ

実動 IODF のバックアップ・コピーを、代替 IODF ボリュームに取ることができません。1 次 IODF ボリュームがアクセス不能になった場合、代替 IODF ボリューム上のバックアップ IODF の 1 つを通して IPL することができます。IODF を代替ボリュームにコピーするには、次の手順を使用します。

1. *SYSn.IPLPARM* データ・セットを 1 次 IODF ボリューム上に置きます。
2. *SYSn.IPLPARM* データ・セットの中に、1 次 IODF ボリューム上の IODF を指す *LOADxx* メンバーを置きます。
3. 1 次 IODF ボリューム 上のすべての IODF に、次のような名前を付けます。

'*SYSn.IODFxx*'

ここで、

**SYSn**            *SYSn.IPLPARM* 中の高位修飾子

**n**                *SYSn.IPLPARM* 中に指定したのと同じ 0 から 9 の数値

**xx**                00 から FF の 16 進数値

4. *LOADxx* メンバーの中に、IODF 名の高位修飾子を指定していないことを確認します。システムは、IODF 名の高位修飾子として、*SYSn.IPLPARM* の高位修飾子 (*SYSn*) をデフォルトとして使用します。

たとえば、2-4ページの図2-4 では、IODF 名の高位修飾子のデフォルトとして、*SYS3.IPLPARM* の高位修飾子 (*SYS3*) を使用します。このため、*SYS3.IPLPARM* 中の *LOADxx* メンバーは、1 次 IODF ボリューム中の *SYS3.IODFxx* データ・セットを指すことになります。

**注:** 2-4ページの図2-4 の例では、*LOADxx* メンバーの中に、IODF 名の高位修飾子を指定していないものと想定しています。

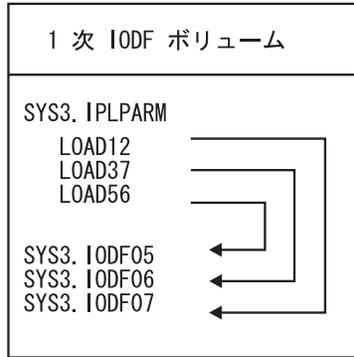


図2-4. *SYSn.IPLPARM* データ・セットが入った 1 次 IODF ボリューム

1. *SYSn.IPLPARM* データ・セットとそれに関連する IODF (*SYSn.IODFxx* データ・セット) を、代替 IODF ボリュームにコピーします。
2. DFDSS (SMS 管理のボリュームの場合) または IEBCOPY を使用して、*LOADxx* メンバーを *SYSn.IPLPARM* の中にコピーします。
3. HCD パネルを使用して、IODF を対話式にコピーします。  
あるいは、IDCAMS を使用して、バックアップの IODF を割り振り、その後 HCD のバッチ呼び出しを使用して IODF をコピーします。

代替 IODF ボリューム上の *SYSn.IPLPARM* データ・セットと *SYSn.IODFxx* データ・セットには、異なる “n” の数値を指定してください。

たとえば、図2-5 では、1 次 IODF ボリュームには、*SYS3.IPLPARM* データ・セットと *SYS3.IODFxx* データ・セットがあります。代替 IODF ボリュームには、*SYS5.IPLPARM* データ・セットと *SYS5.IODFxx* データ・セットがあります。

**注:** *LOADxx* メンバーの中に、IODF 名の高位修飾子を指定しなかった 場合で、IODF データ・セット名の接尾部 (xx) がどちらのボリュームも同じ場合には、*SYS5.IPLPARM* 中の *LOADxx* メンバーを変更する必要はありません。

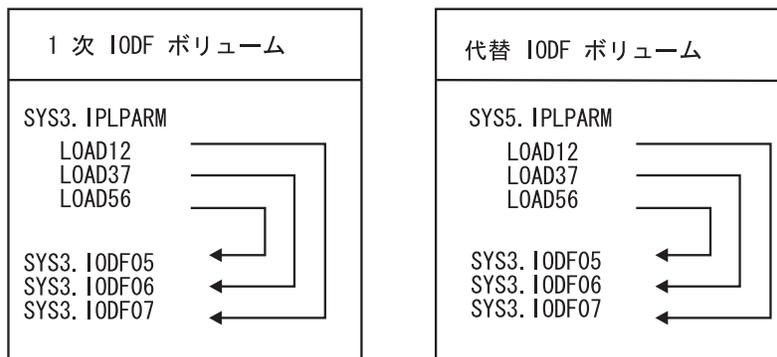


図2-5. *SYSn.IPLPARM* データ・セットがある 1 次および代替の IODF ボリューム

---

## SYSn.IPLPARM

### 内容

SYSn.IPLPARM は任意指定の区分データ・セットであり、ここには、SYSn.IPLPARM と同じボリュームに置かれる入出力定義ファイル (IODF) を指す LOADxx メンバーが入れられます。SYSn.IPLPARM データ・セットとそれに関連する IODF の関係に関する詳細については、*z/OS インストール計画 リリース 1* を参照してください。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームには、1 つの SYSn.IPLPARM とそれに関連する IODF のみを入れておく必要があります。 (“n” は、0 から 9 までの 1 桁の数字です)。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB
LRECL=80
BLKSIZE=0
```

### 使用法の情報

SYSn.IPLPARM は、複数システム環境において特に有効です。各システムに対して 1 つの SYSn.IPLPARM データ・セットを使用することができます。それぞれのシステムでは、そのシステム用の実動 IODF が置かれているボリューム上に SYSn.IPLPARM データ・セットがなければなりません。

SYSn.IPLPARM データ・セットは、MVS/ESA SP 4.2 またはそれ以降のオペレーティング・システムでのみ使用することができます。

MVSCP から HCD にマイグレーションする間は、SYSn.IPLPARM には、IODF を指す LOADxx メンバー、および MVSCP 中核構成メンバーを指すその他のメンバーが含まれます。

---

## SYS1.APPCSI

### 内容

SYS1.APPCSI は、任意指定の VSAM キー順データ・セットです。これは、APPC/MVS 用のサイド情報ファイルであり、APPC/MVS ネットワーク内での会話の流れを制御するのに役立ちます。

### 割り振り情報

このデータ・セットは、APPC/MVS を使用する場合にのみ割り振ります。このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

このデータ・セットを割り振るときは、SYS1.SAMPLIB のメンバー ATBSIVSM で提供されるサンプル・ジョブを使用してください。このデータ・セットを保守するときは、APPC 管理ユーティリティー (ATBSDFMU) を使用します。このデータ・セットの割り振りおよび保守の方法に関する詳細については、*z/OS MVS 計画 : APPC/MVS 管理* を参照してください。

---

## SYS1.APPCTP

### 内容

SYS1.APPCTP は、任意指定の VSAM キー順データ・セットです。これは、APPC/MVS 用の TP プロファイル・ファイルであり、APPC/MVS ネットワーク内での会話の流れを制御するのに役立ちます。

### 割り振り情報

このデータ・セットは、APPC/MVS を使用する場合にのみ割り振ります。このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

このデータ・セットを割り振るときは、SYS1.SAMPLIB のメンバー ATBTPVSM で提供されるサンプル・ジョブを使用してください。このデータ・セットを保守するときは、APPC 管理ユーティリティー (ATBSDFMU) を使用します。このデータ・セットの割り振りおよび保守の方法に関する詳細については、*z/OS MVS 計画 : APPC/MVS 管理* を参照してください。

---

## SYS1.BROADCAST

### 内容

SYS1.BROADCAST は必須の基本直接アクセス方式 (BDAM) データ・セットであり、ここには、2 種類の TSO/E メッセージを入れることができます。

- 通知 -- システムのすべてのユーザーが利用できるメッセージ
- メール -- システムの特定のユーザーだけが利用できるメッセージ

このシステム・データ・セットには通知ディレクトリーも含まれ、各タイプのメッセージがアクセスしやすくなっています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットはマスター・カタログに登録します。システムの処理効率を高めるために、スペースはシリンダー単位で割り振ります。

注:

1. このデータ・セットの DCB 情報は、次のように指定してください。  
DCB(LRECL, BLKSIZE=129, RECFM=F, DSORG=DA)
2. このデータ・セットには満了日を指定しないでください。

3. グローバル・リソース逐次化がインストールされ、アクティブにされていない限り、このデータ・セットを複数のシステムで共用しないでください。

## 使用法の情報

このデータ・セットを初期設定し、RACF データ・セット、SYS1.UADS、あるいはその両方と同期させるためには、TSO/E SYNC コマンドを使用します。

---

## SYS1.CMDLIB

### 内容

SYS1.CMDLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここには、TSO/E コマンド処理ルーチン、サービス・ルーチン、およびユーティリティ・プログラムが入ります。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

このデータ・セットをカタログに登録しスペースを割り振るのは、TSO/E をアクティブにする場合だけにしてください。2 次スペースを割り振ることができます。このライブラリーが LNKLST 連結の中にある場合には、このライブラリーをマスター・カタログに登録しなければなりません。

LNKLST 連結を定義するために、LNKLSTxx ではなく PROGxx 内の LNKLST ステートメントを使用することができます。IPL 時に、定義した LNKLST セットのための LNKLST ACTIVATE ステートメントがあり、LNK=xx の代わりに PROG=xx を指定していることを確認してください。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

---

## SYS1.CSSLIB

### 内容

SYS1.CSSLIB は必須の区分データ・セット (PDS) または拡張区分データ・セット (PDSE) であり、ここには IBM 提供のリンケージ援助ルーチンが入っており、呼び出し可能サービスをアクセスするときにプログラムによって使用されます。

それぞれのリンケージ援助ルーチンは、呼び出し可能サービスを探し出して呼び出すために必要な論理を提供します。 *z/OS MVS* マイグレーション および *DFSMS/MVS DFSMSdfp Advanced Services*

システム・インストール時に、システム・モジュールは呼び出し可能サービスをアクセスします。 ユーザー・モジュールで呼び出し可能サービスを使用することもできます。

リンケージ援助ルーチンは、リンケージ・エディターに入力されたデータを使用して、ユーザー・モジュールが呼び出し可能サービスに対して行う参照を解決します。 ロードのみ可能 (OL) の特性をもつリンケージ援助ルーチンもいくつかあります。

## 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

SYS1.CSSLIB は自動的に LNKLIB 連結に組み込まれます。この LNKLIB 連結は、プログラミング・ライブラリーを SYS1.LINKLIB と連結させることによって形成されます。SYS1.LINKLIB の LNKLIBxx メンバーには、プログラム・ライブラリーの名前が入っています。これらのライブラリーを SYS1.LINKLIB と連結させると、LNKLIB 連結が形成されます。LNKLIB データ・セットは、1 次エクステンツのみを指定して割り振ってください。そうしないと、LNKLIB ライブラリーを更新したとき、このデータ・セットが拡張され、2 次エクステンツにまたがるおそれがあります。 *z/OS MVS* 初期設定およびチューニング 解説書 を参照してください。

このシステム・データ・セットはマスター・カタログにカタログ登録しなければなりません。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

---

## SYS1.DAE

### 内容

SYS1.DAE は任意指定の固定ブロック順次データ・セットであり、ここにはダンプ分析重複回避機能 (DAE) によって識別される固有のダンプの永続レコードが入りません。

## 割り振り情報

SYS1.DAE が必要になるのは、DAE を活動化させる場合だけです。SYS1.DAE は、データ・セットのデフォルト名です。PARMLIB メンバー ADYSETxx の DSN パラメーターを使用して、DAE データ・セットの名前を指定することができます。このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。2 次スペースを割り振ることができます。DAE データ・セットは SMS 管理にすることができます。DAE データ・セットを共用したい場合には、必ず、共用するそれぞれのシステムで DAE データ・セットをカタログに登録してください。

SYS1.DAE を使用するとき、DISP=SHR と指定しておくこと、固有ダンプのレコードを走査検索することができます。SYS1.DAE に入っているレコードは、TSO/E か ISPF の編集機能または他のデータ・セット機能を使用して追加、更新、削除ができますが、徴候ストリングは編集できません。シスプレックスでは、複数のシステム間で DAE データ・セットを共用することができます。DAE データ・セットを共用する場合には、IBM では、データ・セットに SYS1.DAE 以外の名前を指定するようお勧めしています。

割り振りの場合は、DD ステートメントに次のように指定してください。

```
RECFM=FB  
LRECL=255  
DSORG=PS  
BLKSIZE=0  
DISP=(,CATLG)
```

また、直接アクセス記憶装置上の DAE データ・セットは、400 レコード収容できるような大きさに指定するようにしてください。

また、RACF またはパスワードを使用して DAE を保護するようにしてください。

## 補足情報

DAE の詳細、およびこのデータ・セットの使用方法については、*z/OS MVS Diagnosis: Tools and Service Aids* を参照してください。

シスプレックスにおける DAE データ・セットの逐次化に関する詳細については、*z/OS MVS 計画：グローバル・リソース逐次化* を参照してください。

---

## SYS1.DBBLIB

### 内容

SYS1.DBBLIB は任意指定の区分データ・セットであり、DFP アクセス方式圧縮サポート (DAM および VSAM) で使用される圧縮ビルディング・ブロックが入っています。SYS1.DBBLIB は、DFSMS の初期設定の間に初期設定されます。

## 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、DASD 上に常駐し、カタログ登録されていなければなりません。

このデータ・セットの DCB サブパラメーターは、次のように指定します。

```
RECFM=VB  
LRECL=80  
BLKSIZE=8800
```

## 使用法の情報

このデータ・セットは変更しないでください。このデータ・セットを変更すると、システムは操作を続行しますが、圧縮サービスは提供されなくなります。

---

## SYS1.DDIR

### 内容

SYS1.DDIR は、シスプレックス・ダンプ・ディレクトリーを含む、任意指定の VSAM データ・セットです。ディレクトリーはシスプレックス内のシステム間で、共用することができます。SVC ダンプを書き出すとき、システムは自動的にタイトル、徴候、また他のダンプに関する他の問題データをシスプレックス・ダンプ・ディレクトリーに入れます。対話式問題制御システム (IPCS) のサブコマンドを使用して、独立型ダンプやトレース・データ・セットのようなデータ・セット内にある他の問題データなどの情報を、ディレクトリーに入れることができます。

SYS1.DDIR は、シスプレックス・ダンプ・ディレクトリーのデフォルト名です。インストール先では、PARMLIB メンバー BLSCECT の SYSDDIR ステートメントに、または PARMLIB メンバー BLSCECT を通じてアクセスされる他のメンバーの SYSDDIR ステートメントに、他の名前を指定することができます。

### 割り振り情報

IPCS の BLSCDDIR CLIST を使用してシスプレックス・ダンプ・ディレクトリーを作成します。CLIST の VOL キーワードを明示的に指定するか、デフォルトである VOL(VSAM01) を使用することによって、指定したボリュームにシスプレックス・ダンプ・ディレクトリーを置くことができます。下記の TSO/E コマンドは、CLIST を実行し、シスプレックス・ダンプ・ディレクトリーに SYS1.DDIR という名前を付け、VSAM01 という名前の DASD ボリュームに置きます。

```
%blscddir dsn(sys1.ddir)
```

BLSCDDIR CLIST を使用する場合は、SYSPROC DD ステートメントまたは TSO/E ALTLIB コマンドを介して、SYS1.SBLSCLI0 システム・データ・セットにアクセスしなければなりません。BLSCDDIR CLIST の詳細については、z/OS MVS 対話式問題管理システム (IPCS) カスタマイズを参照してください。

シスプレックス・ダンプ・ディレクトリーは、リストされるダンプごとに 5000 バイトの大きさが必要です。IPCS サブコマンドの ADDDUMP、EVALDUMP、EVALSYM、COPYDDIR、DROPSYM、および DROPDUMP などを使用して、ディレクトリーを管理することができます。DROPDUMP サブコマンドは、不要になった古いダンプのリストを削除する場合に使用できます。

---

## SYS1.DGTCLIB

### 内容

SYS1.DGTCLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここには対話式記憶管理機能 (ISMF) のためのコマンド・リスト (CLIST) テキストが入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このシステム・データ・セットはカタログに登録しておかなければなりません。また 2 次スペースを割り振ることができます。

ISMF を使用するには、このデータ・セットを TSO セッションにも割り振っておく必要があります。

このデータ・セットは CLIST データ・セットであるので、これを他の CLIST データ・セットと連結することができます。このデータ・セットには、他の CLIST データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

CLIST データ・セットの規則がまだ確立されていない場合は、DCB サブパラメータをとりあえず次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

**注:** SYSPROC という DD 名を持つプロシージャーに SYS1.DGTCLIB を連結してください。(希望する場合は、ISPF ログオン・プロシージャーを使用することができます。)

---

## SYS1.DGTLLIB

### 内容

SYS1.DGTLLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここには対話式記憶管理機能 (ISMF) のためのシステム・ロード・モジュールが入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このシステム・データ・セットは必ずカタログに登録してください。このライブラリーが LNKLST 連結に入っている場合、このライブラリーをマスター・カタログにカタログ登録しなければならず、2 次スペースを割り振ることができます。LNKLST データ・セットは、1 次エクステンツのみを指定して割り振ってください。そうしないと、LNKLST ライブラリーを更新したとき、このデータ・セットが拡張され、2 次エクステンツにまたがるおそれがあります。z/OS MVS 初期設定およびチューニング 解説書 を参照してください。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

注: ISPLLIB という DD 名を持つ ISPF ロード・ライブラリーに SYS1.DGTLLIB を連結してください。

---

## SYS1.DGTMLIB

### 内容

SYS1.DGTMLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここには対話式記憶管理機能 (ISMF) のためのメッセージ・テキストが入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このシステム・データ・セットはカタログに登録しておかなければなりません。また 2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは ISPF データ・セットの 1 つであるため、他の ISPF データ・セットと連結しなければなりません。このデータ・セットには、他の ISPF メッセージ・データ・セットに指定したものと同一 RECFM 値および LRECL 値を指定します。

ISPF がまだインストールされていないときは、DCB サブパラメーターをとりあえず次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB
LRECL=80
BLKSIZE=0
```

注: ISPMLIB という DD 名を持つ ISPF メッセージ・ライブラリーに SYS1.DGTMLIB を連結してください。

---

## SYS1.DGTPLIB

### 内容

SYS1.DGTPLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはダイアログ式記憶管理機能 (ISMF) のためのダイアログ・パネルが入っています。

## 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このシステム・データ・セットはカタログに登録しておかなければなりません。また 2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは ISPF パネル・データ・セットの 1 つであるため、他の ISPF パネル・データ・セットと連結しなければなりません。このデータ・セットには、他の ISPF データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

ISPF がまだインストールされていないときは、DCB サブパラメーターをとりあえず次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB
LRECL=80
BLKSIZE=0
```

注: ISPLIB という DD 名を持つ ISPF パネル・ライブラリーに SYS1.DGTPLIB を連結してください。

---

## SYS1.DGTSLIB

### 内容

SYS1.DGTSLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはダイアログ式記憶管理機能 (ISMF) のためのダイアログ・スケルトンが入っています。

## 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このシステム・データ・セットはカタログに登録しておかなければなりません。また 2 次スペースを割り振ることができます。

ISMF を使用するには、このデータ・セットを TSO セッションにも割り振っておく必要があります。

このデータ・セットは ISPF スケルトン・データ・セットの 1 つであるため、他の ISPF スケルトン・データ・セットと連結しなければなりません。このデータ・セットには、他の ISPF データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

ISPF がまだインストールされていないときは、DCB サブパラメーターをとりあえず次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB
LRECL=80
BLKSIZE=0
```

注: ISPSLIB という DD 名を持つ ISPF スケルトン・ライブラリーに SYS1.DGTSLIB を連結してください。

---

## SYS1.DGTTLIB

### 内容

SYS1.DGTTLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはダイアログ式記憶管理機能 (ISMF) のためのダイアログ・テーブルが入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このシステム・データ・セットはカタログに登録しておかなければなりません。また 2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは ISPF テーブル・データ・セットの 1 つであるため、他の ISPF テーブル・データ・セットと連結しなければなりません。このデータ・セットには、他の ISPF データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

ISPF がまだインストールされていないときは、DCB サブパラメーターをとりあえず次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

注: ISPTLIB という DD 名を持つ ISPF テーブル・ライブラリーに SYS1.DGTTLIB を連結してください。

---

## SYS1.DUMPnn

### 内容

SYS1.DUMPnn システム・データ・セット (SYS1.DUMP00 から SYS1.DUMP99) は任意指定の順次データ・セットであり、ここにはシステム・タスクに障害が起こったとき仮想記憶域を記録したシステム・ダンプが入ります。

SVC ダンプのために、自動的に割り振られるデータ・セットを使用することもできます。システムがダンプを書き出すときに、これらのデータ・セットが割り振られます。データ・セットは、DASD ボリューム・セットまたはシステム管理記憶 (SMS) クラスによって割り振ることができます。詳細については、*z/OS MVS Diagnosis: Tools and Service Aids* 中の SVC ダンプのための自動割り振りデータ・セットを参照してください。

### 割り振り情報

SYS1.DUMPnn データ・セットの使用は任意です。システム・ダンプ・データ・セットは最高 100 個まで定義できます。これらは、いずれも直接アクセス装置に常駐していなければなりません。IPL を行なったあと、DUMPDS コマンドを使用してダンプ・データ・セットを追加したり、削除したりできます。

CHNGDUMP オペレーター・コマンドを使用して、予想される最大のダンプの数倍の大きさの値に、MAXSPACE パラメーターを設定することができます。そうしておく、システムは複数のダンプを同時に処理することができます。

**注:**

1. ダンプ・データ・セットを複数のシステム間で共用することはできません。
2. すべてのダンプ・データ・セットを事前に割り振っておかなければなりません。
3. ダンプ・データ・セットはプロダクトのインストール前でも、インストール後でも定義できます。
4. 2 次ストレージを割り振ることができます。ダンプ・データ・セットで使用するストレージを節減するためには、まず 1 次ストレージを少なめに割り振っておき、次に予想される最大ダンプに見合う 2 次ストレージを割り振ります。
5. システムでは、ダンプ・データ・セットが複数のボリュームにまたがることはできません。そのために、ダンプ・データ・セットが入れられるそれぞれのボリュームでは、データ・セットの拡張を見込んで十分なストレージを確保しておく必要があります。各ダンプ・データ・セットには、ダンプが 1 つだけ入れられます。
6. ダンプ・データ・セットは、システム常駐ボリュームに常駐させることができます。
7. 次のように指定してください。
  - ダンプ・データ・セット用のスペースを割り振り、カタログに登録しておく。
  - ダンプ・データ・セットを永続常駐ボリュームに置いておく。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB
LRECL=4160
BLKSIZE=4160
```

## 補足情報

詳細については、*z/OS MVS Diagnosis: Tools and Service Aids* を参照してください。

---

## SYS1.FDEFLIB

### 内容

SYS1.FDEFLIB は、高機能印刷のための書式定義 (FORMDEF) オブジェクトが入っている任意指定の区分データ・セットです。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。SYS1.FDEFLIB を使用するとき、DISP=SHR と指定してください。

このデータ・セット用のスペースを割り振り、カタログに登録してください。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM={VBM|VBA|VM|VA}  
LRECL=8205  
BLKSIZE=0
```

---

## SYS1.FONTLIB

### 内容

SYS1.FONTLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここには高機能印刷のための各種フォント・オブジェクト (コード化フォント、フォント文字セット、およびコード・ページ) が入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

SYS1.FONTLIB を使用するとき、DISP=SHR と指定してください。

このデータ・セット用のスペースを割り振り、カタログに登録してください。

このデータ・セットをインストールするときは、*Advanced Function Printing Fonts Program Directories* に従ってください。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM={VBM|VBA|VM|VA}  
LRECL=8205  
BLKSIZE=0
```

---

## SYS1.HELP

### 内容

SYS1.HELP は任意指定の区分データ・セットであり、ここには各 TSO/E コマンドの構文、オペランド、および機能を説明したヘルプ情報が入っています。

### 割り振り情報

SYS1.HELP が必要になるのは、TSO/E の HELP コマンドを使用する場合だけです。このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。2 次スペースを割り振ることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB  
LRECL=80
```

BLKSIZE=0

## 補足情報

このシステム・データ・セットの詳細については、*z/OS TSO/E カスタマイズ* および *z/OS TSO/E プログラミングの手引き* を参照してください。

---

## SYS1.IMAGELIB

### 内容

SYS1.IMAGELIB は必須の区分データ・セットであり、ここには 1403、3203-5 型、および 3211 用の汎用文字セット (UCS) イメージ、3203-5 型、3211、および 3800 用の用紙制御バッファ (FCB) モジュール、3800 文字配列テーブル・モジュール、3800 図形文字変更モジュール、3800 コピー変更モジュール、3800 ライブラリー文字セット、3525 データ保護イメージ (DPI)、および 3890 書類読取処理装置の SCI プログラムが入っています。

IEBIMAGE ユーティリティを使用して、IBM 提供のライブラリー文字セットを SYS1.IMAGELIB にインストールする方法は、*MVS/DFP ユーティリティ* に説明されています。IBM UCS (汎用文字セット) または IBM FCB (用紙制御バッファ) イメージのいずれかを SYS1.IMAGELIB に追加する方法の説明については、*MVS/DFP システム・プログラミング解説書* を参照してください。

このデータ・セットには、ユーザー作成の用紙制御バッファ (FCB) イメージ、汎用文字セット (UCS) イメージ、および 3800 サポート・モジュールを入れておくことができます。

**注:** SYS1.IMAGELIB に加えた変更を取り出すには、ジョブ入力サブシステム (JES2 または JES3) を再始動する必要があります。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、永続的に取り付けられた直接アクセス・ボリュームに常駐していなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットはマスター・カタログに登録します。2 次スペースを割り振ることができます。許可プログラムの機能 (APF) に対して SYS1.IMAGELIB を許可するためには、SYS1.IMAGELIB の名前とボリューム通し番号を SYS1.PARMLIB の PROGxx メンバーに追加します。動的 APF が使用されている場合には、SYS1.IMAGELIB を APF 許可にする必要があります。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメータを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

注: セキュリティーを考慮する必要があるインストール先では、無許可プログラムがこのライブラリーへのリンク編集によって許可を得ることができないようにするため、SYS1.IMAGELIB を保護することが必要です。

---

## SYS1.INDMAC

### 内容

SYS1.INDMAC は任意指定の区分データ・セットであり、ここには産業サブシステムのためのマクロ定義が入っています。

ユーザー作成のマクロを、産業サブシステム・サポートをインストールする前にSYS1.INDMAC に入れておくことができます。

### 割り振り情報

SYS1.INDMAC が必要になるのは、産業サブシステム・サポートをインストールする場合だけです。このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。システムの処理効率を高めるために、スペースはシリンダー単位で割り振ります。2 次スペースを割り振ることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

---

## SYS1.ISAMLPA

### 内容

SYS1.ISAMLPA は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはページ可能リンク・パック域 (PLPA) にロードされるすべての ISAM コンポーネント・モジュールが入っています。

このデータ・セットが SYS1.LPALIB とは別になっているのは、システム・プログラマーが容易に ISAM をシステムから除外できるようにするためです。これにより、LPA 中の仮想記憶域が削減されます。システムから ISAM を除外するためには、LPALST 連結に SYS1.ISAMLPA を指定しないでください。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットを使用する場合には、これをマスター・カタログに登録し、APF 許可し、LPALST 連結に追加しておく必要があります。スペースはシリンダー単位で割り振ります。2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

---

## SYS1.LINKLIB

### 内容

SYS1.LINKLIB は必須の区分データ・セット (PDS) または拡張区分データ・セット (PDSE) であり、ここには XCTL、ATTACH、LINK、および LOAD マクロ命令によって参照されるプログラムとルーチンが、非常駐システム・ルーチンと一緒に入っています。SYS1.LINKLIB には、アセンブラー・プログラム、リンケージ・エディター、ユーティリティ・プログラム、および保守援助プログラムも入っています。

**注:** DFSMS/MVS 1.1 またはそれ以降のリリースと一緒に出荷されたプログラム管理バインダーは、SYS1.LPALIB の中に入っています。

ユーザー作成ルーチンは、プロダクトのインストール前にロード・モジュール形式で SYS1.LINKLIB に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットはマスター・カタログに登録します。

IBM では、SYS1.LINKLIB のスペースを、シリンダー単位で割り振ることをお勧めしています。処理効率を最大にするために、代替トラックは使用しないでください。このデータ・セットが PDS である場合には、2 次スペースを割り振るべきではありません。このデータ・セットに対して 2 次スペースを割り振った場合には、それ以後 2 次スペースの割り振りが行われると、メンバーが追加の 2 次データ・セット・エクステンツに置かれる可能性があります。データ・セットの圧縮によって、現行 IPL で使用されるエクステンツ上に、これらの追加のメンバーが持ってこられないと、それらの追加のメンバーは次の IPL まで使用できなくなります。

**注:** DFSMS/MVS 1.1 がインストールされており、かつ SMS がアクティブである場合には、SMS 管理ボリューム上に PDSE としてこのデータ・セットを作成することで、この制限を免れることができます。

MVS は、許可プログラム機能 (APF) に対して SYS1.LINKLIB を自動的に許可します。

SYS1.PARMLIB の LNKLSTxx メンバーには、プログラム・ライブラリーの名前が入っています。これらのプログラム・ライブラリーは、SYS1.LINKLIB と連結して

LNKLST 連結を形成するものです。LNKLST データ・セットは、1 次エクステントのみを指定して割り振ってください。そうしないと、LNKLST ライブラリーを更新したとき、このデータ・セットが拡張され、2 次エクステントにまたがるおそれがあります。 *z/OS MVS 初期設定およびチューニング 解説書* を参照してください。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U  
LRECL=0  
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

---

## LOGREC データ・セット

### 内容

LOGREC データ・セットは、機械故障 (プロセッサ故障、入出力装置エラー、チャネル・エラー) に関する統計データが収められている任意指定のデータ・セットです。また、このデータ・セットには、プログラム・エラー記録、未着割り込み情報、および動的装置再構成 (DDR) ルーチンに関するレコードも収められます。logrec データ・セットをシステム間で共用することはできません。

LOGREC データ・セットを使用しない場合は、LOGREC ログ・ストリームを使用してシスプレックス全体のエラーや環境レコードを記録するか、またはエラーの記録を使用不能にするか (テスト環境が目的である場合) のいずれかが可能です。

### 割り振り情報

LOGREC データ・セットは移動することのできない順次システム・データ・セットであり、直接アクセス・ボリューム上に常駐しなければなりません。これはシステム常駐ボリュームにすることができます。

IBM では、このデータ・セットには 2 次スペースを割り振らないことをお勧めしています。2 次スペースが割り振られても使用されません。

#### 注:

1. DCB サブパラメーターは指定しないでください。
2. このデータ・セットは、複数のシステム間で共用しないでください。
3. 新しいシステムの最初の IPL の前に、IFCDIP00 プログラムを実行して LOGREC データ・セットを初期設定してください。
4. 多重システム環境で、デフォルト名 SYS1.LOGREC を使用して IFCDIP00 を実行している場合は、ボリューム通し番号を付けて、固有の LOGREC データ・セットを指定するように注意してください。固有のデータ・セットを指定することによって、IFCDIP00 が異なるシステムで実行され、他のシステムの LOGREC データ・セットが初期設定されてしまうのを防ぐことができます。

LOGREC データ・セットに対する、IBM 提供のデフォルト名は SYS1.LOGREC です。システムが認識しているこの LOGREC データ・セットの名前を変更するには、PARMLIB メンバー IEASYSxx の LOGREC パラメーターを使用します (PARMLIB メンバーをシステム間で共有して、必要な IEASYSxx 指定の数を減らすには、データ・セット名の一部に &SYSNAME という記号を使用してください)。

多重システム環境で LOGREC データ・セットに固有な名前を指定する場合に、IBM では、この名前を PARMLIB メンバー GRSRNLxx の中の SYSTEMS 排他リソース名リストに入れられないことをお勧めしています。

**注:** 共用マスター・カタログ環境では、LOGREC データ・セット名がデフォルトの SYS1.LOGREC にならないようにしてください。LOGREC パラメーターを使用して、カタログを共用するすべてのシステムに対して固有な名前を定義してください。

## 補足情報

新しいシステムをインストールした後、IFCDIP00 プログラムを使用して、LOGREC データ・セットのサイズを増やしたり減らしたりすることができます。LOGREC データ・セットのスペース割り振りを変更した後は、LOGREC データ・セットの新しいインスタンスを使用するために、システムを再 IPL しなければなりません。

LOGREC データ・セットの定義、あるいはシスプレックス内のエラーと環境レコードを記録するための LOGREC ログ・ストリームの設定に関する詳細については、*z/OS MVS Diagnosis: Tools and Service Aids* を参照してください。

ログ・ストリームの詳細については、*z/OS MVS プログラミング：アセンブラー・サービス ガイド* を参照してください。

---

## SYS1.LPALIB

### 内容

SYS1.LPALIB は必須の区分データ・セットであり、ここにはページ可能リンク・バック域 (PLPA) にロードされるすべてのモジュールが入っています。これらのモジュールには、システム・ルーチン、SVC ルーチン、データ管理アクセス方式、非常駐マシン・チェック・ハンドラー・モジュール、DFSMS/MVS 1.1 と一緒に提供されるプログラム管理バインダー、許可および会計出口ルーチン、ログオン・モード・テーブル、およびいくつかの TSO/E モジュールがあります。

ユーザー作成ルーチンは、プロダクトのインストール前にロード・モジュール形式で SYS1.LPALIB に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットはマスター・カタログに登録します。スペースはシリンダー単位で割り振ります。2 次スペースを割り振ることができます。SYS1.LPALIB を PDSE にすることはできません。

SYS1.PARMLIB の LPALSTxx メンバーには、MVS に SYS1.LPALIB への連結を行なわせたプログラム・ライブラリーの名前が入っています。これを LPALST 連結といいます (z/OS MVS 初期設定およびチューニング 解説書 を参照してください。)

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

---

## SYS1.MACLIB

### 内容

SYS1.MACLIB は必須の区分データ・セットであり、ここにはマクロ定義が入っています。

ユーザー作成のシステム・マクロを、プロダクトのインストール前に SYS1.MACLIB に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

システムの処理効率を高めるために、スペースはシリンダー単位で割り振ります。2 次スペースを割り振ることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB
LRECL=80
BLKSIZE=0
```

アセンブラーのマクロは、SYS1.MACLIB および SYS1.MODGEN でもって提供されます。プログラムでマクロを使用する場合には、アセンブラーが両方を使用できるようにしてください。

---

## SMF データ・セット

### 内容

SMF システム・データ・セットは任意指定の VSAM データ・セットであり、システム測定機能 (SMF) ルーチンまたは他の測定機能によって収集された情報が入っています。

## 割り振り情報

SMF データ・セットは、SMF または他の測定機能が記録を行う場合にのみ必要です。

- 各 SMF データ・セットは、SMF 記録を開始する最初の IPL より前に作成しておかなければなりません。
- SMF データ・セットは、永続的に取り付けられた直接アクセス・ボリューム上に常駐しなければなりません。
- SMF データ・セットをシステム間で共用することはできません。

SMF データ・セットの定義に関する特定の情報 (SMF データ・セットの制御インターバルの選択方法など) については、*z/OS MVS システム管理機能 (SMF)* を参照してください。

---

## SYS1.MIGLIB

### 内容

SYS1.MIGLIB は、必須の区分データ・セット (PDS) または拡張区分データ・セット (PDSE) であり、これは対話式問題制御システム (IPCS) およびすべてのコンポーネントとサブシステムのダンプ出口モジュールのためのシステム・ロード・ライブラリーです。SNAP 処理を行うとき機能させる必要のあるコンポーネントとサブシステムのダンプ出口は、SYS1.LPALIB にも常駐していなければなりません。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットはマスター・カタログに登録します。システムの処理効率を高めるために、スペースはシリンダー単位で割り振ります。

**注:** SYS1.MIGLIB は自動的に LNKLST 連結に組み入れられます。この LNKLST 連結は、プログラミング・ライブラリーを SYS1.LINKLIB と連結させることによって形成されます。SYS1.LINKLIB の LNKLSTxx メンバーには、プログラム・ライブラリーの名前が入っています。これらのライブラリーを SYS1.LINKLIB と連結させると、LNKLST 連結が形成されます。LNKLST データ・セットは、1 次エクステンツのみを指定して割り振ってください。そうしないと、LNKLST ライブラリーを更新したとき、このデータ・セットが拡張され、2 次エクステンツにまたがるおそれがあります。*z/OS MVS 初期設定およびチューニング 解説書* を参照してください。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

---

## SYS1.MODGEN

### 内容

SYS1.MODGEN は必須の区分データ・セットであり、ここにはマクロ定義が入っています。

ユーザー作成のシステム・マクロを、プロダクトのインストール前に SYS1.MODGEN に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

システムの処理効率を高めるために、スペースはシリンダー単位で割り振ります。2 次スペースを割り振ることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

アセンブラーのマクロは、SYS1.MACLIB および SYS1.MODGEN でもって提供されます。プログラムでマクロを使用する場合には、アセンブラーが両方を使用できるようにしてください。

---

## SYS1.MSGENU

### 内容

SYS1.MSGENU は任意指定の区分データ・セットであり、ここには MVS メッセージ・サービス (MMS) が使用する英語版メッセージ・テーブルが入ります。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=VB  
LRECL=259  
BLKSIZE=6475
```

---

## SYS1.MSGJPN

### 内容

SYS1.MSGJPN は任意指定の区分データ・セットであり、ここには MVS メッセージ・サービス (MMS) が使用する日本語版メッセージ・テーブルが入ります。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=VB
LRECL=259
BLKSIZE=6475
```

---

## SYS1.NUCLEUS

### 内容

SYS1.NUCLEUS は必須の区分データ・セットであり、これには次のものが収められています。

- 2 つのメンバー、IEAVEDAT (DAT オフ) および IEANUC0x (DAT オン) の制御プログラムの常駐部分。
- 中核初期設定プログラム (NIP) および IPL で使用されるハードウェア構成定義 (HCD) 用のプログラム。
- 場合によっては、代替マスター・カタログへの (メンバー SYSCATxx の中の) ポインター。

SYS1.NUCLEUS のメンバー SYSCATLG には、マスター・カタログを指すポインターを入れることもできます。しかし、IBM では、マスター・カタログを指定するときは、SYS1.PARMLIB または SYSn.IPLPARM の LOADxx メンバーの SYSCAT ステートメントを使用することをお勧めしています。

DAT オン中核の特殊バージョンを別に作ることができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、システム常駐ボリュームに常駐しなければなりません。2 次スペースまたは複数エクステンツは割り振らないでください。SPACE パラメーターに CONTIG を指定してください (1-9 ページの図 1-4 を参照)。SYS1.NUCLEUS を PDSE にすることはできません。このデータ・セットをマスター・カタログにカタログ登録しなければなりません。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
```

BLKSIZE=32760

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

---

## SYS1.OVERLIB

### 内容

SYS1.OVERLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはユーザーによって生成されたオーバーレイ、またはオーバーレイ生成言語プログラムによって生成されたオーバーレイが入ります。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットが必要になるのは、オーバーレイ生成言語プログラムを IBM 高機能印刷と一緒にインストールする場合だけです。このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

SYS1.OVERLIB を使用している場合、オーバーレイ生成言語プログラムを実行しているときには DISP=OLD を指定し、それ以外のときは DISP=SHR を指定してください。

このデータ・セット用のスペースを割り振り、カタログに登録してください。  
PSF/MVS プログラム・ディレクトリー

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM={VBM|VBA|VM|VA}  
LRECL=8205  
BLKSIZE=0
```

---

## SYS1.PARMLIB

### 内容

SYS1.PARMLIB は必須の区分データ・セットであり、ここには、システム・パラメーター値のリストが入った、IBM 提供のメンバーとインストール先で作成したメンバーが収容されます。

ユーザー作成のシステム・パラメーター・メンバーを、プロダクトのインストール前に SYS1.PARMLIB に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。システムの処理効率を高めるために、スペースはシリンダー単位で割り振ります。2 次

スペースを割り振ることができます。このデータ・セットはマスター・カタログに登録します。SYS1.PARMLIB を PDSE にすることはできません。

**注:** IODF を指す 1 つまたは複数の LOADxx メンバーが SYS1.PARMLIB に収められている場合は、それらの IODF が入っているボリューム、あるいはシステム常駐ボリュームに SYS1.PARMLIB を置く必要があります。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB
LRECL=80
BLKSIZE=0
```

## 補足情報

補足情報については、*z/OS MVS 初期設定およびチューニング 解説書* を参照してください。

---

## PASSWORD データ・セット

### 内容

PASSWORD データ・セットは、非 VSAM データ・セットのためのパスワードを含むオプションの順次データ・セットです。SMS 管理データ・セットの場合、パスワードは無視されます。

**注:** IBM では、データを保護する主な手段としてパスワードを使用することはお勧めしていません。1-4ページの『システム・データ・セットの保護』を参照してください。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、システム常駐ボリュームに常駐しなければなりません。PASSWORD データ・セットに割り振られたスペースは連続していなければなりません。保護したいデータ・セットの数によって、割り振るスペースの量が決まります。PASSWORD データ・セット内の各エントリーには、それぞれ 132 バイトのスペースが必要です。このデータ・セットはマスター・カタログに登録します。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=F
LRECL=80
BLKSIZE=80
KEYLEN=52
```

## 補足情報

補足情報については、*DFSMS/MVS Using Data Sets*

---

## SYS1.PDEFLIB

### 内容

SYS1.PDEFLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここには高機能印刷のためのページ定義が収められます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。SYS1.PDEFLIB を使用するときには、DISP=SHR と指定してください。

このデータ・セット用のスペースを割り振り、カタログに登録してください。

*PSF/MVS* プログラム・ディレクトリー

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM={VBM|VBA|VM|VA}  
LRECL=8205  
BLKSIZE=0
```

---

## SYS1.PROCLIB

### 内容

SYS1.PROCLIB は必須の区分データ・セットであり、ここには特定のシステム機能を実行するために使用されるソース JCL が入ります。ソース JCL は、オペレーターまたはプログラマーから呼び出されるシステム・タスク、または処理プログラム・タスクのためのものが使用可能です。

ユーザー作成のプロシージャーを、プロダクトのインストール前に SYS1.PROCLIB に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。SYS1.PROCLIB を PDSE にすることはできません。システムの処理効率を向上させるために、スペースはシリンダー単位で割り振ってください。2 次スペースを割り振ることができます。しかし、追加のエクステン트가使用されても、JES はその追加のエクステン트에アクセスすることができません。このデータ・セットはマスター・カタログに登録します。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

---

## SYS1.PSEGLIB

### 内容

SYS1.PSEGLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここには高機能印刷のためのページ・セグメントが入ります。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。SYS1.PSEGLIB を使用するときは、DISP=SHR と指定してください。

このデータ・セット用のスペースを割り振り、カタログに登録してください。

*PSF/MVS* プログラム・ディレクトリー

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM={VBM|VBA|VM|VA}  
LRECL=8205  
BLKSIZE=0
```

---

## SYS1.SAMPLIB

### 内容

SYS1.SAMPLIB は必須の区分データ・セットであり、ここにはインストール検査手順 (IVP)、独立ユーティリティー、および IPL テキストが入っています。サンプル出口ルーチンも入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このシステム・データ・セットは、システムのインストール時にだけ必要であるため (実行時には必要ありません)、カタログに登録する必要はありません。2 次スペースを割り振ることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=3120
```

---

## SYS1.SBLSCLI0

### 内容

SYS1.SBLSCLI0 は任意指定の区分データ・セットであり、ここには対話式問題制御システム (IPCS) のためのコマンド・リスト (CLIST) のテキストが入っています。

ユーザー作成の IPCS CLIST を、プロダクトのインストール前に SYS1.SBLSCLI0 に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは CLIST データ・セットであるので、これを他の CLIST データ・セットと連結することができます。このデータ・セットには、他の CLIST データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

CLIST データ・セットの規則がまだ確立されていない場合は、DCB サブパラメータをとりあえず次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

**注:** SYSPROC という DD 名を持つプロシージャーに SYS1.SBLSCLI0 を連結してください。(希望する場合は、ISPF ログオン・プロシージャーを使用することができます。)

---

## SYS1.SBLSKELO

### 内容

SYS1.SBLSKELO は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはダイアログ式問題制御システム (IPCS) のダイアログ・プログラムのためのファイル調整スケルトンが入っています。

ユーザー作成の IPCS ダイアログ・ファイル調整スケルトンを、プロダクトのインストール前に SYS1.SBLSKELO に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは ISPF スケルトン・データ・セットの 1 つであるため、他の ISPF スケルトン・データ・セットと連結しなければなりません。このデータ・セットには、他の ISPF データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

ISPF がまだインストールされていないときは、DCB サブパラメーターを次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

注: ISPSLIB という DD 名を持つ ISPF スケルトン・ライブラリーに SYS1.SBLSKELO を連結してください。

---

## SYS1.SBLSMSG0

### 内容

SYS1.SBLSMSG0 は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはダイアログ式問題制御システム (IPCS) のダイアログ・プログラムのためのメッセージ・テキストが入っています。

ユーザー作成の IPCS ダイアログ・メッセージ・メンバーを、プロダクトのインストール前に SYS1.SBLSMSG0 に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは ISPF データ・セットの 1 つであるため、他の ISPF メッセージ・データ・セットと連結しなければなりません。このデータ・セットには、他の ISPF メッセージ・データ・セットに指定したものと同一 RECFM 値および LRECL 値を指定します。

ISPF がまだインストールされていないときは、DCB サブパラメーターを次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

注: ISPMLIB という DD 名を持つ ISPF メッセージ・ライブラリーに SYS1.SBLSMSG0 を連結してください。

---

## SYS1.SBLSPNL0

### 内容

SYS1.SBLSPNL0 は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはダイアログ式問題制御システム (IPCS) のダイアログ・プログラムのためのダイアログ・パネルが入っています。

ユーザー作成の IPCS ダイアログ・パネルを、プロダクトのインストール前に SYS1.SBLSPNL0 に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは ISPF パネル・データ・セットの 1 つであるため、他の ISPF パネル・データ・セットと連結しなければなりません。このデータ・セットには、他の ISPF データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

ISPF がまだインストールされていないときは、DCB サブパラメーターを次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

注: ISPLIB という DD 名を持つ ISPF パネル・ライブラリーに SYS1.SBLSPNL0 を連結してください。

---

## SYS1.SBLSTBL0

### 内容

SYS1.SBLSTBL0 は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはダイアログ式問題制御システム (IPCS) のダイアログ・プログラムのためのダイアログ・テーブルが入っています。

ユーザー作成の IPCS ダイアログ・テーブルを、プロダクトのインストール前に SYS1.SBLSTBL0 に入れておくことができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは ISPF テーブル・データ・セットの 1 つであるため、他の ISPF テーブル・データ・セットと連結しなければなりません。このデータ・セットには、他の ISPF データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

ISPF がまだインストールされていないときは、DCB サブパラメーターを次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB
LRECL=80
BLKSIZE=0
```

注: ISPTLIB という DD 名を持つ ISPF テーブル・ライブラリーに SYS1.SBLSTBL0 を連結してください。

---

## SYS1.SCBDCLST

### 内容

SYS1.SCBDCLST は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはハードウェア構成定義 (HCD) を呼び出して実行するための CLIST プロシージャが入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。システム常駐ボリュームに常駐させることもできます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは CLIST データ・セットであるので、これを他の CLIST データ・セットと連結することができます。このデータ・セットには、他の CLIST データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

CLIST データ・セットの規則がまだ確立されていない場合は、DCB サブパラメーターをとりあえず次のように指定しておきます。

```
RECFM=FB
LRECL=80
BLKSIZE=0
```

注: SYSPROC という DD 名を持つプロシージャに SYS1.SCBDCLST を連結します。(希望する場合は、ISPF ログオン・プロシージャを使用することができます。)

---

## SYS1.SCBDHENU

### 内容

SYS1.SCBDHENU は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはハードウェア構成定義 (HCD) のための英語版ヘルプ・パネルが入っています。このデータ・セットには、言語依存の HCD モジュールが入っています。

## 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。IBM では、このデータ・セットをカタログ登録することをお勧めしています。

このモジュールを HCD の実行中に使用する場合、これらのモジュールは、ISPF がプログラムを見つけるときに使用する探索順序にあるライブラリーの中に常駐していなければなりません。このライブラリーを ISPLLIB 連結、リンク・リスト、または LPA リストの中に置くことによって、探索順序の中に入れることができます。このライブラリーをリンク・リスト連結または LPA リスト連結の中に置く場合は、マスター・カタログに登録しなければなりません。

2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U  
LRECL=0  
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

注: SYS1.SCBDHENU が LINKLIB 連結の中にある場合は、ISPLLIB の DD 名を持ったロード・ライブラリーと連結してください。

---

## SYS1.SCBDHJPN

### 内容

SYS1.SCBDHJPN は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはハードウェア構成定義 (HCD) のための日本語版ヘルプ・パネルが入っています。このデータ・セットには、言語依存の HCD モジュールもいくつか入っています。

## 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。システム常駐ボリュームに常駐させることもできます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。このライブラリーが LNKLST 連結の中にある場合には、このライブラリーをマスター・カタログに登録しなければなりません。2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットは ISPF ヘルプ・データ・セットの 1 つであるため、他の ISPF ヘルプ・データ・セットと連結しなければなりません。このデータ・セットには、他の ISPF データ・セットで指定したものと同一 RECFM 値と LRECL 値を指定します。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

RECFM=FB  
LRECL=0  
BLKSIZE=32760

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

注: SYS1.SCBDHJPN が LINKLIB 連結の中に入らない場合は、ISPLLIB の DD 名を持ったロード・ライブラリーと連結してください。

---

## SYS1.SCBDMENU

### 内容

SYS1.SCBDMENU は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはハードウェア構成定義 (HCD) のための英語版メッセージが入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。システム常駐ボリュームに常駐させることもできます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

注: このデータ・セットは連結しないでください。HCD が連結を行います。

### データ・セット特性

RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0

---

## SYS1.SCBDMJPN

### 内容

SYS1.SCBDMJPN は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはハードウェア構成定義 (HCD) のための日本語版メッセージが入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。システム常駐ボリュームに常駐させることもできます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

注: このデータ・セットは連結しないでください。HCD が連結を行います。

### データ・セット特性

RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0

---

## SYS1.SCBDPENU

### 内容

SYS1.SCBDPENU は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはハードウェア構成定義 (HCD) のための英語版パネルが入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。システム常駐ボリュームに常駐させることもできます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

注: このデータ・セットは連結しないでください。HCD が連結を行います。

### データ・セット特性

RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0

---

## SYS1.SCBDPJPN

### 内容

SYS1.SCBDPJPN は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはハードウェア構成定義 (HCD) のための日本語版パネルが入っています。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。システム常駐ボリュームに常駐させることもできます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

注: このデータ・セットは連結しないでください。HCD が連結を行います。

### データ・セット特性

RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0

---

## SYS1.SCBDTENU

### 内容

SYS1.SCBDTENU は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはハードウェア構成定義 (HCD) 用の英語版キー・リストと ISPF コマンド・テーブルが入っています。

## 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。システム常駐ボリュームに常駐させることもできます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

注: このデータ・セットは連結しないでください。HCD が連結を行います。

## データ・セット特性

RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0

---

## SYS1.SCBDTJPN

### 内容

SYS1.SCBDTJPN は任意指定の区分データ・セットであり、ここにはハードウェア構成定義 (HCD) 用の日本語版キー・リストと ISPF コマンド・テーブルが入っています。

## 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。システム常駐ボリュームに常駐させることもできます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。2 次スペースを割り振ることができます。

注: このデータ・セットは連結しないでください。HCD が連結を行います。

## データ・セット特性

RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0

---

## SYS1.SISTMAC1

### 内容

SYS1.SISTMAC1 は区分データ・セットであり、VTAM 拡張通信機能 (ACF/VTAM) マクロ定義が入っています。このシステム・データ・セットが必要になるのは、ACF/VTAM がインストールされている場合だけです。

ユーザー作成のマクロを SYS1.SISTMAC1 の中に入れることができます。

## 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。

システムの処理効率を高めるために、スペースはシリンダー単位で割り振ります。  
2 次スペースを割り振ることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB  
LRECL=80  
BLKSIZE=0
```

---

## SYS1.STGINDEX データ・セット

### 内容

VIO ジャーナリング・データ・セットは、任意指定の VSAM データ・セットであり、ここには、チェックポイント / 再始動のために仮想入出力 (VIO) データ・セットが IPL と IPL の間で保管されるようにするための補助記憶装置管理レコードが入っています。(IPL 時に CVIO または CLPA が指定されている場合、VIO データ・セットは保管できません。)

VIO ジャーナリング・データ・セットは、チェックポイント / 再始動を使用してジョブを自動的に再始動する場合、および IPL と IPL の間でこのようなジョブで使用した VIO データ・セットを保管する必要がある場合にのみ必要です。チェックポイント / 再始動については、*MVS/DFP* チェックポイント / 再始動 を参照してください。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このボリュームは、永続的に取り付けるか、あるいは使用中の間は予約しておいてください。

このデータ・セットは、複数のシステム間で共用しないでください。

### アクセス方式サービスの使用

VIO ジャーナリング・データ・セットの使用を計画している場合は、データ・セットを事前に定義し、スペースをシリンダー単位で割り振らなければなりません。データ・セットを事前に定義するには、指定された個所に適切な値を指定して、次のコマンドおよびパラメーターを指定してください。(この例では、示された値は、サンプル値であり、VIO ジャーナリング・データ・セットの値は、SYS1.STGINDEX です。)

```
DEFINE CLUSTER -  
  (NAME(SYS1.STGINDEX) -  
  FILE(STGINDEX) -  
  KEYS(12 8) -  
  CYLINDERS(primary) -  
  BUFFERSPACE(20480) -  
  RECORDSIZE(2041 2041) -  
  VOLUME(volser) -  
  REUSE) -  
  DATA (CONTROLINTERVALSIZE(2048)) -  
  INDEX (CONTROLINTERVALSIZE(4096))
```

VIO ジャーナリング・データ・セットに対する IBM 提供のデフォルト名は SYS1.STGINDEX です。システムが認識しているこの VIO ジャーナリング・データ・セット名を変更するには、PARMLIB メンバー IEASYSxx の VIODSN パラメーターを使用します。(PARMLIB メンバーをシステム間で共有して、必要な IEASYSxx 指定の数を減らすには、データ・セット名の一部に &SYSNAME という記号を使用してください)。

複数システム環境では、各システムに固有の VIO ジャーナリング・データ・セットを作成する必要があり、IBM では、PARMLIB メンバー GRSRNLxx の中の SYSTEMS 排他リソース名リストにそれらの名前を置かないことをお勧めしています。

共用マスター・カタログ環境では、VIO ジャーナリング・データ・セット名がデフォルトの SYS1.STGINDEX にならないようにしてください。VIODSN パラメーターを使用して、カタログを共用するすべてのシステムに対して固有な名前を定義してください。

## 補足情報

DEFINE CLUSTER の使用方法に関する詳細については、*DFSMS/MVS Access Method Services for VSAM Catalogs* を参照してください。

VIO ジャーナリング・データ・セットの定義方法に関する詳細については、*z/OS MVS 初期設定およびチューニング 解説書* を参照してください。

---

## SYS1.SVCLIB

### 内容

SYS1.SVCLIB は必須の区分データ・セットであり、ここには一部のオンライン・テスト監視プログラム (OLTEP) と付加モジュールが入っています。

ユーザー作成ルーチンをロード・モジュール形式で入れることができます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、システム常駐ボリュームに常駐しなければなりません。スペースはシリンダー単位で割り振ります。2 次スペースは割り振らないでください。SYS1.SVCLIB を PDSE にすることはできません。このデータ・セットはマスター・カタログに登録します。

MVS は、許可プログラム機能 (APF) に対して SYS1.SVCLIB を自動的に許可します。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

---

## SYS1.TCOMM MAC

### 内容

SYS1.TCOMM MAC は任意指定の区分データ・セットであり、ここには ACF/TCAM レコード API マクロが入っています。

### 割り振り情報

SYS1.TCOMM MAC が必要になるのは、ACF/TCAM をインストールする場合だけです。このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットはカタログに登録する必要はありません。システムの処理効率を高めるために、スペースはシリンダー単位で割り振ります。2 次スペースを割り振ることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB
LRECL=80
BLKSIZE=0
```

---

## SYS1.TELCMLIB

### 内容

SYS1.TELCMLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここには通信サブルーチンがロード・モジュール形式で入っています。

ユーザー作成ルーチンをロード・モジュール形式で入れることができます。

### 割り振り情報

SYS1.TELCMLIB は、BTAM/SP または ACF/TCAM をインストールする場合にのみ必要です。このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。システムの処理効率を向上させるために、スペースはシリンダー単位で割り振ってください。このライブラリーが LNKLST 連結の中にある場合には、このライブラリーをマスター・カタログに登録しなければなりません。2 次スペースを割り振ることができます。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U
LRECL=0
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

---

## SYS1.UADS

### 内容

SYS1.UADS は任意指定の区分データ・セットであり、ここには許可 TSO/E ユーザーのリストが、これらのユーザーに関する情報と一緒に収容されます。

### 割り振り情報

このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このシステム・データ・セットはカタログに登録してください。ただし、スペースは、TSO/E をアクティブにする場合だけ割り振ってください。2 次スペースを割り振ることができます。

割り振りは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定して行います。

```
RECFM=FB
DSORG=PO
LRECL=注 4 を参照
BLKSIZE=1720
```

#### 注:

1. SYS1.UADS には満了日を指定しないでください。
2. グローバル・リソース逐次化がインストールされ、アクティブにされていない限り、このデータ・セットを複数のシステムで共用しないでください。
3. SYS1.UADS の割り振りまたは再割り振りを行うときは、必ず TSO/E SYNC コマンドを使用して、SYS1.UADS、RACF データ・セット、および SYS1.BROADCAST を同期化しなければなりません。
4. TSO/E をインストールしている間、SYS1.UADS は LRECL=80 で割り振らなければなりません。SMP/E によるインストールが完了した後は、SYS1.UADS を LRECL=172 で再割り振りするようにしてください。TSO/E をインストールしている間は、UADS には任意の高レベル修飾子が使用できます。ただし、IPL 時には、SYS1.UADS データ・セットが存在し、カタログ登録され、しかも少なくとも 1 人のユーザーが入っていることが必要です。

スペース使用効率を最適化するための SYS1.UADS の設定方法、および SYS1.UADS の共用方法の詳細については、*z/OS TSO/E カスタマイズ* を参照してください。

---

## SYS1.VTAMLIB

### 内容

SYS1.VTAMLIB は任意指定の区分データ・セットであり、ここには、ACF/VTAM ロード・モジュール、ユーザー作成のログオン出口ルーチン、許可および会計出口ルーチン、および不定様式システム・サービス (USS) 定義テーブルが入ります。

ユーザー作成ルーチンをロード・モジュール形式に入れることができます。

### 割り振り情報

SYS1.VTAMLIB が必要になるのは、ACF/VTAM をインストールする場合だけです。このシステム・データ・セットは、直接アクセス・ボリュームに常駐しなければなりません。このボリュームはシステム常駐ボリュームにすることができます。このデータ・セットは、カタログに登録してください。このライブラリーが LNKLST 連結の中にある場合には、このライブラリーをマスター・カタログに登録しなければなりません。2 次スペースを割り振ることができます。

**注:** SYS1.VTAMLIB は、ユーザー定義のネットワーク制御プログラムのロード・モジュール・ライブラリーと同様に、許可が与えられている必要があります。そのために、これらのライブラリーはともに、SYS1.PARMLIB の PROGxx メンバーに入れてください。

このデータ・セットを割り振るときは、DD ステートメントの DCB サブパラメーターを次のように指定します。

```
RECFM=U  
LRECL=0  
BLKSIZE=32760
```

このデータ・セットをコピーするときは、1-12ページの『ロード・モジュール・データ・セットおよびプログラム・オブジェクト・データ・セットのコピー』を参照してください。

### 第3章 旧実動システムからのデータ・セットの使い方

新しく構築したシステムの一部のデータ・セットを、旧実動システムのデータ・セットで置き換えたい場合があります。次に説明する例は、6 ステップからなる手順を使用して、新しく構築したシステムの同等の機能を持つメンバーを、旧実動システムのマスター・カタログ、ページ・データ・セットおよび VIO ジャーナリング・データ・セットで置き換えるものです。この種のプロシーチャーを使用する場合は、その前に適切なテストを実行して、新しいシステムが動作可能な状態であるかどうかを確認してください。z/OS 要素用の IVP (インストール検査プログラム) については、z/OS Program Directory を参照してください。

図3-1 は、旧実動システムの 4 つのボリュームに存在するデータ・セットの一部を、新しく構築したシステムの 3 つのボリュームに存在するデータ・セットと結合する場合を示しています。

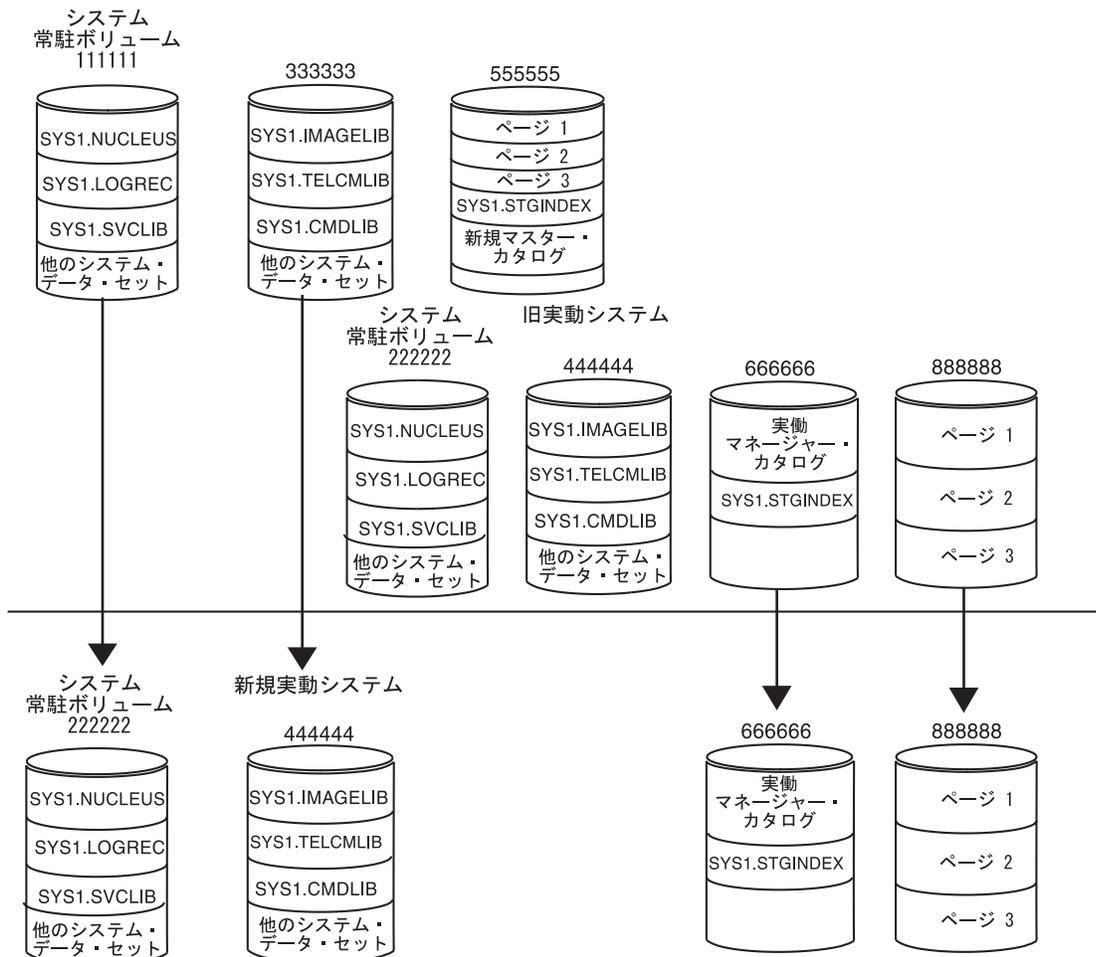


図 3-1. 旧実動システムのデータ・セットと新構築システムとの結合

この例に示すプロシーチャーでは、旧実動システムまたは新しく構築したシステムのどのボリュームにも、VSAM データ・セットと非 VSAM データ・セットが一緒に置かれていないことを前提としています。VSAM データ・セットと非 VSAM デ

ータ・セットがいずれかのボリュームと一緒に置かれている場合は、このプロシージャーを使用する前に、それらを別々のボリュームに置くように定義し直してください。

システム常駐ボリュームに置かれており、SYS1.PARMLIB の IEAAPFxx メンバーに指定することによって APF 許可されていない非 VSAM データ・セットを、特定のボリューム通し番号を指定してカタログし直す場合、間接ボリューム通し番号と装置タイプを使用して VOLUMES と DEVICETYPES パラメーターを指定することを考慮してください (1-5ページの『非 VSAM システム・データ・セットの定義方法』を参照)。

## ステップ 1

**注:** LOADxx PARMLIB メンバーの SYSCAT ステートメントを使用してマスター・カタログを指定する場合には、SYS1.NUCLEUS の SYSCATLG メンバーの代わりに PARMLIB メンバー LOADxx を更新してください。

新しく構築したシステムの SYS1.NUCLEUS の SYSCATLG メンバーを更新して、旧実動システムのマスター・カタログが含まれているボリューム通し番号が含まれるようにします。マスター・カタログは 666666 ボリュームに存在しています。STEPA では SYSCATLG メンバーを削除します。STEPB は新しいメンバーを追加するもので、旧実動システムの実動マスター・カタログが置かれているボリュームのボリューム通し番号を指定しています。

```
//STEPA EXEC PGM=IEHPROGM
//NEWRES DD DISP=OLD,UNIT=3390,VOL=SER=111111
//SYSPRINT DD SYSOUT=A
//SYSIN DD *
SCRATCH DSN=SYS1.NUCLEUS,VOL=3390=111111,MEMBER=SYSCATLG
/*
//STEPB EXEC PGM=IEBGENER
//SYSIN DD DUMMY
//SYSUT2 DD DSN=SYS1.NUCLEUS(SYSCATLG),DISP=(MOD,KEEP),
// DCB=(BLKSIZE=18432),VOL=SER=111111,UNIT=3390
//SYSPRINT DD SYSOUT=A
//SYSUT1 DD *
666666 (下記の説明を参照してください。)
/*
```

**注:** STEPB では、IEBGENER を使用する必要があります (STEPB で IEBUPDATE を使用すると、データ・セットの中にはレコード形式が変更されるものがあります)。

STEPB の入カステートメントは、特定の桁に特定の値を指定する必要があります。

桁	内容		
1 ~ 6	マスター・カタログが置かれているボリュームのボリューム通し番号		
7	カタログの種類		
	カタログ	16 進コード	カード穿孔コード
	ICF	F1	1
	SYS% 付き ICF	F2	2
	VSAM	00	12-0-9-8-1

カタログ	16 進コード	カード穿孔コード
VSAM	40	穿孔なし

注: 上記のリストに示した以外のコードは予約コードです。SYS%に関する詳細については、*DFSMS/MVS Managing Catalogs*

## 8 カタログ別名の修飾レベル

修飾レベル	16 進コード	カード穿孔コード
1	01	12-1-9
1	40	穿孔なし
1	F1	1
2	02	12-2-9
2	F2	2
3	03	12-3-9
3	F3	3
4	04	12-4-9
4	F4	4

注: 上記のリストに示した以外のコードは予約コードです。カタログ別名の詳細については、*DFSMS/MVS Managing Catalogs*

9 ~ 10 カタログ・アドレス・スペース (CAS) サービス・タスクの下限値。C'18' から C'B4' まで。ただし C'3C' がデフォルト。

11 ~ 54 旧実動システムの構築時に指定したマスター・カタログ名、あるいはアクセス方式サービスの DEFINE MASTERCATALOG コマンドまたは DEFINE USERCATALOG コマンドの NAME パラメーター。このマスター・カタログ名は、統合カタログ機能カタログの場合は LISTCAT を用いて印刷したデータ・コンポーネント名、または VSAM カタログの場合は LISTCAT を用いて印刷したクラスター名から得ることもできます。

注: 代替マスター・カタログの作成方法については、*DFSMS/MVS Managing Catalogs*

55 ~ 80 未使用

---

## ステップ 2

新しく構築されたシステムのマスター・カタログ、ページ・データ・セット、および VIO ジャーナリング・データ・セット (SYS1.STGINDEX) が含まれているボリューム (例では 555555) は、もう必要ではありません。このボリュームを取り外すか、オフラインに変更してください。

---

## ステップ 3

新しく作成されたシステム・データ・セットが入っているボリュームのボリューム通し番号を変更します。この例では、SYS1.NUCLEUS と他のデータ・セットが入っているボリューム 111111 と、SYS1.IMAGELIB と他のデータ・セットが入っているボリューム 333333 を変更します。最初に、ボリューム 111111 と 333333 をオフラインにします。次に、装置サポート機能の REFORMAT コマンドを使用して、

これらのボリュームのボリューム通し番号を、旧実動システムで使用していたボリューム 222222 と 444444 のボリューム通し番号に変更します。

---

## ステップ 4

新しいシステム・データ・セットがあれば、それをカタログに再登録します。この例では、システム・データ・セットは示されていません。しかし、たとえば、SYS1.CMDLIB が新構築のシステムのシステム常駐ボリュームに置かれているが、旧実動システムではシステム常駐ボリューム以外のボリュームに置かれていた場合は、SYS1.CMDLIB をいったんカタログから削除し、アクセス方式サービスを使用してカタログに登録しなおす必要があります。

---

## ステップ 5

SYS1.NUCLEUS と他のデータ・セットが置かれている旧実動システム常駐ボリュームと、SYS1.IMAGELIB と他のデータ・セットが置かれているボリュームをシステムから取り除きます。この例では、これらのボリューム通し番号は 222222 と 444444 になっています。

---

## ステップ 6

新しい実動システムの IPL を行います。

## 付録. 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラム、またはサービスに代えて、IBM の有効な知的所有権またはその他の法的に保護された権利を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の操作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書で解説されている主題について特許権（特許出願を含む）、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書の提供は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31  
AP 事業所  
IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとし、国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとし、

本書は定期的に見直され、必要な変更（たとえば、技術的に不適確な表現や誤植など）は、本書の次版に組み込まれます。本書に対して、周期的に変更が行われ、これらの変更は、文書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとし、

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

AP 事業所  
Mail Station P300  
2455 South Road  
Poughkeepsie, NY 12601-5400  
USA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は現れない場合があります。

---

## 商標

本書で使用する以下の用語は、米国 IBM 社の商標です。

- ACF/VTAM
- Advanced Function Printing
- AnyNet
- BookManager
- CBIPO
- CICS
- DFSMS
- DFSMSdfp
- DFSMSdss
- DFSMSHsm
- DFSMSrmm
- DFSMS/MVS
- ESCON
- GDDM
- IBM
- IBMLink
- IMS
- Language Environment
- MVS/DFP
- MVS/ESA
- OpenEdition
- OS/2
- OS/390
- Print Services Facility
- PSF
- RACF

- Resource Link
- RMF
- SOMobjects
- SystemPac
- SystemView
- VisualLift
- VTAM
- z/OS

UNIX は、米国およびその他の国における The Open Group の登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。



# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## [ア行]

- アクセス方式サービス
  - カタログ・エントリーのリスト 1-7, 1-12
  - システム・データ・セット
    - カタログ登録 1-1
    - 定義方法 1-1
  - システム・データ・セットのカタログ登録 1-6
- アセンブラー・プログラム
  - システム・データ・セット 2-19
- インストール検査手順 2-29

## [カ行]

- 拡張通信機能 2-40
- 仮想記憶アクセス方式 2-1
- 間接ボリューム
  - 装置タイプ 1-6
  - 通し番号 1-6
- 共通域
  - 使用されるページ・データ・セット 1-15
- 共通サービス区域 1-14

## [サ行]

- 産業サブシステム・サポート
  - システム・データ・セット 2-18
- システム・データ・セット 2-1
  - カタログ登録
    - アクセス方式サービスを使用した 1-1, 1-6
  - システム・パラメーター値
    - リスト 2-26
  - セキュリティー 1-4
  - 選択方法 1-1
  - 定義方法
    - アクセス方式サービスを使用した 1-1
    - JCL を使用した 1-1
  - 非 VSAM
    - カタログ登録 1-6
    - スペースの割り振り 1-7
    - 定義方法 1-5
  - 保護 1-4
  - 要約表 1-2
  - リスト 1-2
  - RACF による保護 1-4

- システム・データ・セット 2-1 (続き)
  - VSAM スペースの割り振り 1-12
  - VSAM のカタログ登録 1-12
  - VSAM の定義 1-12
- システム・パラメーター値
  - リスト
    - システム・データ・セット 2-26
- システム・マイグレーション・ライブラリー
  - データ・セット 2-23
- シスプレックス・ダンプ・ディレクトリー
  - システム・データ・セット 2-10
  - SYS1.DDIR データ・セット 2-10
- ジョブ制御言語 1-1
- ストレージ
  - システムから ISAM を除外することによる仮想記憶域の削減 2-18
- スペース使用効率
  - 最適化 1-9
- スペース使用効率の最適化 1-9
- スペース割り振り 1-1

## [タ行]

- 対話式記憶管理機能 2-11
- 対話式問題制御システム 2-30
- ダンプ・ディレクトリー 2-14
- 通信アクセス方式 2-40
  - データ・セット
    - プログラム・オブジェクト
      - コピー 1-12
    - ロード・モジュール
      - コピー 1-12
- 統合カタログ機能 1-5
- 独立ユーティリティー
  - システム・データ・セット 2-29
- 特記事項 A-1

## [ナ行]

- 入出力定義ファイル 2-1

## [ハ行]

- ハードウェア構成定義 2-33
- パフォーマンス
  - 最適化 1-9
- パフォーマンスの最適化 1-9
- 非 VSAM
  - システム・データ・セット
    - カタログ登録 1-6

非 VSAM (続き)  
定義方法 1-5  
非ロード・モジュール・データ・セット  
ブロック・サイズ 1-9  
付加モジュール  
システム・データ・セット 2-39  
不定様式システム・サービス 2-42  
プログラム・オブジェクト・データ・セット  
コピー 1-12  
ブロック・サイズ 1-9  
ページ可能リンク・パック域 1-15  
ページ・データ・セット  
アクセス方式サービスでの使用 1-12  
旧実動システム 3-1  
内容 1-14  
ポインター、マスター・カタログを指す  
位置 2-25  
保守援助プログラム  
システム・データ・セット 2-19

## [マ行]

マスター・カタログ  
旧実動システム 3-1  
指定方法  
要件 2-1  
所在を突き止める  
データ・セット 2-1  
ユーザー・カタログ 2-1  
説明 2-1  
定義方法  
アクセス方式サービスを使用した 1-4, 1-5  
ポインター  
位置 2-25  
ICF 3-1

## [ヤ行]

ユーティリティー・プログラム  
システム・データ・セット 2-19  
独立 2-29  
呼び出し可能サービス  
システム・データ・セット 2-7

## [ラ行]

リンク・パック域  
ページ可能 2-21  
リンケージ・エディター  
システム・データ・セット 2-19  
ロード・モジュール・データ・セット  
コピー 1-12

ロード・モジュール・データ・セット (続き)  
ブロック・サイズ 1-10, 1-11

## [ワ行]

割り振り  
スペース 1-1

## [数字]

2 重データ・セット  
アクセス方式サービスでの使用 1-12

## A

ACF (拡張通信機能)  
ACF/TCAM  
レコード API マクロ 2-40  
ACF/VTAM  
出口ルーチン 2-42  
ロード・モジュール 2-42  
ACF/TCAM  
レコード API マクロ  
システム・データ・セット 2-40  
ACF/VTAM  
出口ルーチン  
会計 2-42  
許可 2-42  
ログオン 2-42  
ロード・モジュール 2-42  
USS (不定様式システム・サービス)  
定義テーブル 2-42

## B

BLKSIZE (ブロック・サイズ) 1-9  
システムが決定する 1-9  
非ロード・モジュール・データ・セット 1-9  
ロード・モジュール・データ・セット 1-10, 1-11

## C

CSA (共通サービス区域)  
ページ・データ・セットに入っている 1-14  
CYLINDERS パラメーター  
DEFINE コマンド 1-5

## D

DAE (ダンプ分析重複回避機能)  
システム・データ・セット 2-8

DAT オフ中核  
説明 2-25  
IEAVEDAT メンバー 2-25  
DAT オン中核  
説明 2-25  
IEANUC0n メンバー 2-25  
IEAVEDAT メンバー 2-25  
DEFINE コマンド  
非 VSAM システム・データ・セット 1-7  
マスター・カタログ 1-5  
VSAM システム・データ・セット 1-12  
DUMPDS コマンド 2-14

## H

HCD (ハードウェア構成定義)  
システム・データ・セット  
英語版キー・リスト 2-36  
英語版パネル 2-36  
英語版ヘルプ・パネル 2-33  
英語版メッセージ 2-35  
日本語版キー・リスト 2-37  
日本語版パネル 2-36  
日本語版ヘルプ・パネル 2-34  
日本語版メッセージ 2-35  
プロシージャー 2-33

## I

ICF (統合カタログ機能)  
マスター・カタログ 1-5, 2-1, 3-1  
IEANUC0n メンバー、SYS1.NUCLEUS の  
説明 2-25  
IEASYS00 メンバー、SYS1.PARMLIB の  
ページ・データ・セットの指定 1-14  
IEAVEDAT メンバー、SYS1.NUCLEUS の  
説明 2-25  
IODF (入出力定義ファイル)  
説明 2-1  
IPCS (対話式問題制御システム)  
システム・データ・セット  
ダイアログ・スケルトン 2-30  
ダイアログ・テーブル 2-32  
ダイアログ・パネル 2-32  
メッセージ 2-31  
CLIST 2-30  
ダイアログ・スケルトン 2-30  
ダイアログ・テーブル 2-32  
ダイアログ・パネル 2-32  
メッセージ 2-31  
CLIST 2-30  
IPL テキスト  
システム・データ・セット 2-29

ISAM (索引順次アクセス方式)  
システムからの除外 2-18  
ISMF (対話式記憶管理機能)  
システム・データ・セット  
ダイアログ・スケルトン 2-13  
ダイアログ・テーブル 2-14  
ダイアログ・パネル 2-12  
メッセージ 2-12  
ロード・モジュール 2-11  
CLIST 2-11  
ダイアログ・スケルトン 2-13  
ダイアログ・テーブル 2-14  
ダイアログ・パネル 2-12  
メッセージ 2-12  
ロード・モジュール 2-11  
CLIST 2-11  
IVP (インストール検査手順)  
システム・データ・セット 2-29

## J

JCL (ジョブ制御言語)  
システム・データ・セット  
カタログ登録 1-1  
定義方法 1-1  
システム・データ・セットの定義方法 1-1

## L

LISTCAT コマンド 1-7, 1-12  
LOGREC データ・セット  
説明 2-20  
LPA (リンク・バック域)  
システムから ISAM を除外することによる LPA ス  
トレージの削減 2-18

## M

MAXSPACE パラメーター  
CHNGDUMP コマンド 1-13  
LOCAL ページ・データ・セットへの影響 1-13  
MMS (MVS メッセージ・サービス)  
システム・データ・セット 2-24, 2-25

## O

OLTEP モジュール  
システム・データ・セット 2-39

## P

PASSWORD データ・セット

説明 2-27

PLPA (ページ可能リンク・パック域) 2-18, 2-21

使用されるページ・データ・セット 1-15

## R

RACF による保護

システム・データ・セット 1-4

## S

SMF (システム管理機能)

データ・セット 2-22

SMF データ・セット

説明 2-22

内容 2-22

割り振り 2-23

SSS (サブシステム・サポート)

システム・データ・セット 2-18

STPCAT JCL ステートメント

SMS 管理データ・セットに関する考慮事項 1-5

SYS1.APPCSI データ・セット

説明 2-5

SYS1.APPCTP データ・セット

説明 2-6

SYS1.BROADCAST データ・セット

説明 2-6

SYS1.CMDLIB データ・セット

説明 2-7

SYS1.CSSLIB データ・セット

説明 2-7

SYS1.DAE データ・セット

説明 2-8

SYS1.DBBLIB データ・セット

説明 2-9

SYS1.DDIR データ・セット

説明 2-10

SYS1.DGTCLIB データ・セット

説明 2-11

SYS1.DGTLLIB データ・セット

説明 2-11

SYS1.DGTMLIB データ・セット

説明 2-12

SYS1.DGTPLIB データ・セット

説明 2-12

SYS1.DGTSLIB データ・セット

説明 2-13

SYS1.DGTTLIB データ・セット

説明 2-14

SYS1.DUMPnn データ・セット

説明 2-14

SYS1.FDEFLIB データ・セット

説明 2-15

SYS1.FONTLIB データ・セット

説明 2-16

SYS1.HELP データ・セット

説明 2-16

SYS1.IMAGELIB データ・セット

説明 2-17

SYS1.INDMAC

説明 2-18

SYS1.ISAMPLPA データ・セット

説明 2-18

SYS1.LINKLIB データ・セット

説明 2-19

SYS1.LPALIB データ・セット

説明 2-21

SYS1.MACLIB データ・セット

説明 2-22

SYS1.MIGLIB データ・セット

説明 2-23

SYS1.MODGEN データ・セット

説明 2-24

SYS1.MSGENU データ・セット

説明 2-24

SYS1.MSGJPN データ・セット

説明 2-25

SYS1.NUCLEUS データ・セット

説明 2-25

IEANUC0n メンバー 2-25

IEAVEDAT メンバー 2-25

SYSCATLG メンバー 2-25, 3-2

SYS1.OVERLIB データ・セット

説明 2-26

SYS1.PARMLIB データ・セット

説明 2-26

SYS1.PDEFLIB データ・セット

説明 2-28

SYS1.PROCLIB データ・セット

説明 2-28

SYS1.PSEGLIB データ・セット

説明 2-29

SYS1.SAMPLIB データ・セット

説明 2-29

SYS1.SBLSCLI0 データ・セット

説明 2-30

SYS1.SBLSKELO データ・セット

説明 2-30

SYS1.SBLSMSG0 データ・セット

説明 2-31

SYS1.SBLSPNL0 データ・セット  
     説明 2-32  
 SYS1.SBLSTBL0 データ・セット  
     説明 2-32  
 SYS1.SCBDCLST データ・セット  
     説明 2-33  
 SYS1.SCBDHENU データ・セット  
     説明 2-33  
 SYS1.SCBDHJPN データ・セット  
     説明 2-34  
 SYS1.SCBDMENU データ・セット  
     説明 2-35  
 SYS1.SCBDMJPN データ・セット  
     説明 2-35  
 SYS1.SCBDPENU データ・セット  
     説明 2-36  
 SYS1.SCBDPJPN データ・セット  
     説明 2-36  
 SYS1.SCBDTENU データ・セット  
     説明 2-36  
 SYS1.SCBDTJPN データ・セット  
     説明 2-37  
 SYS1.SISTMAC1 データ・セット  
     説明 2-37  
 SYS1.STGINDEX データ・セット 2-38  
 SYS1.SVCLIB データ・セット  
     説明 2-39  
 SYS1.TCOMMACH データ・セット  
     説明 2-40  
 SYS1.TELCMLIB データ・セット  
     説明 2-40  
 SYS1.UADS データ・セット  
     説明 2-41  
 SYS1.VTAMLIB データ・セット  
     説明 2-42  
 SYSCATLG メンバー、SYS1.NUCLEUS データ・セッ  
     トの 3-2  
 SYSn.IPLPARM データ・セット  
     説明 2-5

## T

TCAM (通信アクセス方式)  
     システム・データ・セット  
         通信サブルーチン 2-40  
     ACF/TCAM  
         レコード API マクロ 2-40  
 TSO/E  
     許可端末ユーザー  
         リスト 2-41

## U

USS (不定様式システム・サービス)  
     システム・データ・セット  
         ACF/VTAM 2-42

## V

VIO ジャーナリング・データ・セット  
     情報の保管 2-38  
     説明 2-38  
 VIO データ・セット  
     書き出されたデータ 1-14  
 VSAM (仮想記憶アクセス方式)  
     システム・データ・セット  
         旧実動システム 3-1  
         VSAM マスター・カタログ 2-1  
 VSAM データ・セット  
     カタログ 1-12  
     定義 1-12  
     割り振り 1-12  
 VTAM (仮想記憶通信アクセス方式)  
     システム・データ・セット  
         出口ルーチン 2-42  
         ロード・モジュール 2-42  
         USS (不定様式システム・サービス) 2-42  
     ACF/VTAM  
         出口ルーチン 2-42  
         不定様式システム・サービス 2-42  
         ロード・モジュール 2-42







プログラム番号: 5694-A01

Printed in Japan

SA88-8595-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12